

Ⅲ 市民意識調査から見る現状

1 市民一般調査

(1) 社会的孤立・孤独

ア 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度が（直接会う、電話、書面、SNS、メール等のいずれも）週に1回以下を「社会的孤立」該当者とした場合、「社会的孤立」は5.7%（集計暫定値）となっています。

イ さみしい気持ち（孤独感）を「とても感じる」を「孤独」該当者とした場合、「孤独」は4.7%となっています。

(SA) 問17 さみしい気持ち（孤独感）を日頃、感じますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	とても感じる	60	4.7
2	やや感じる	239	18.7
3	あまり感じない	469	36.7
4	感じない	498	39.0
	無回答	12	0.9
	N (%ベース)	1278	100

ウ 年齢階層別にみると「社会的孤立」については、年齢の偏りはあまり見られない一方、「孤独」については、40歳代が35.0%で最も多くなっています。

問1 令和4年12月1日現在のあなたの年齢をお伺いします。 × 社会的孤立+孤独

%	問1 令和4年12月1日現在のあなたの年齢をお伺いします。	問1 令和4年12月1日現在のあなたの年齢をお伺いします。									
		人数	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答
社会的孤立	全体	1278	0.2	4.7	17.2	23.3	22.8	18.7	10.6	2.3	0.2
	社会的孤立 該当	73	-	6.8	13.7	21.9	23.3	16.4	15.1	2.7	-
	社会的孤立 非該当	1199	0.3	4.6	17.5	23.5	22.8	18.9	10.0	2.3	0.2
孤独	全体	1278	0.2	4.7	17.2	23.3	22.8	18.7	10.6	2.3	0.2
	孤独 該当	60	1.7	6.7	20.0	35.0	25.0	6.7	5.0	-	-
	孤独 非該当	1206	0.2	4.6	17.2	22.9	22.6	19.5	10.5	2.4	0.2

エ 婚姻状況を見ると「社会的孤立」、「孤独」ともに「未婚」で最も多く、それぞれ50.7%、43.3%となっています。

%	問3 あなたの現在の婚姻状況。なお、「配偶者」には事実上夫婦として生活しているが、婚姻届を提出していない場合も含む。	問3 あなたの現在の婚姻状況。なお、「配偶者」には事実上夫婦として生活しているが、婚姻届を提出していない場合も含む。					
		人数	未婚	配偶者あり	死別	離別	無回答
社会的孤立	全体	1278	15.5	73.6	4.5	6.0	0.3
	社会的孤立 該当	73	50.7	20.5	12.3	16.4	-
	社会的孤立 非該当	1199	13.3	77.0	3.9	5.4	0.3
孤独	全体	1278	15.5	73.6	4.5	6.0	0.3
	孤独 該当	60	43.3	41.7	3.3	10.0	1.7
	孤独 非該当	1206	14.1	75.3	4.5	5.9	0.2

オ 最終学歴別にみると「社会的孤立」については、偏りはあまり見られない一方、「孤独」については、「高校（旧制中学校を含む）」が30.0%と比較的に多くなっています。

問7 あなたが最後に卒業した学校又は現在、在学している学校をお答えください。

%	問7 あなたが最後に卒業した学校又は現在、在学している学校をお答えください。	問7 あなたが最後に卒業した学校又は現在、在学している学校をお答えください。								
		人数	小学・中学	専門学校	短大・高専	大学	大学院	その他	無回答	
社会的孤立	全体	1278	0.9	17.6	11.9	12.4	50.1	6.8	-	0.3
	社会的孤立 該当	73	1.4	21.9	19.2	11.0	35.6	11.0	-	-
	社会的孤立 非該当	1199	0.8	17.3	11.4	12.5	51.0	6.6	-	0.3
孤独	全体	1278	0.9	17.6	11.9	12.4	50.1	6.8	-	0.3
	孤独 該当	60	5.0	30.0	15.0	11.7	31.7	6.7	-	-
	孤独 非該当	1206	0.7	17.0	11.7	12.4	51.0	6.9	-	0.3

カ 現在の仕事別にみると「社会的孤立」、「孤独」とともに「正規の職員・従業員」が41.1%、35.0%と最も多く、「社会的孤立」については、「仕事をしていない（仕事を探していない）」が16.0%と比較的多い一方、「孤独」については、「パート・アルバイト（学生アルバイトを除く）」が18.3%と多くなっています。

%		問8 あなたの現在の仕事をお答えください。												
		人数	正規の職員・従業員	派遣社員	パート・アルバイト （学生アルバイト を除く）	契約社員・職社	会社などの役員	自営業主	家族従業員・内職	学生・生徒	仕事をしていない （仕事を探していない）	仕事をしていない （仕事を探している）	その他	無回答
社会的孤立	全体	1278	41.0	2.5	14.6	7.2	3.1	6.1	1.4	1.2	4.6	16.0	-	2.3
	社会的孤立 該当	73	41.1	1.4	8.2	8.2	-	9.6	-	-	12.3	16.4	-	-
	社会的孤立 非該当	1199	41.2	2.6	15.1	7.1	3.3	5.8	1.5	1.3	4.1	15.8	-	2.3
孤独	全体	1278	41.0	2.5	14.6	7.2	3.1	6.1	1.4	1.2	4.6	16.0	-	2.3
	孤独 該当	60	35.0	1.7	18.3	3.3	1.7	5.0	3.3	3.3	11.7	6.7	-	10.0
	孤独 非該当	1206	41.4	2.6	14.6	7.4	3.2	6.1	1.3	1.1	4.1	16.3	-	1.9

キ 現在の住まい別にみると「社会的孤立」、「孤独」とともに「民間の賃貸住宅」で最も多く、それぞれ45.2%、40.0%となっています。

%		問9 あなたの現在の住まいをお答えください。										わからない	その他	無回答
		人数	持ち家（一戸建）	持ち家（マンションなどの 共同住宅）	民営の賃貸住宅	都道府県・市 営の賃貸住宅	都市再生機構（U I）・公社などの 賃貸住宅	給与住宅（社 宅・公務員住 宅など）	会社・学校等 の家・寄宿舎					
社会的孤立	全体	1278	47.4	25.1	21.8	1.8	1.5	0.9	0.2	0.5	0.3	0.6		
	社会的孤立 該当	73	24.7	15.1	45.2	6.8	4.1	1.4	-	2.7	-	-		
	社会的孤立 非該当	1199	49.0	25.9	20.4	1.5	1.3	0.8	0.2	0.3	0.3	0.2		
孤独	全体	1278	47.4	25.1	21.8	1.8	1.5	0.9	0.2	0.5	0.3	0.6		
	孤独 該当	60	36.7	11.7	40.0	5.0	5.0	-	-	1.7	-	-		
	孤独 非該当	1206	48.1	26.0	21.0	1.7	1.3	0.9	0.2	0.4	0.3	0.2		

ク 年間世帯収入別にみると「社会的孤立」、「孤独」とともに400万円未満の所得の方が多くなっています。

%		問10 あなたの世帯の2022年における年間収入（税・社会保険料込み）自営業の場合には営業利益（税込み）											わからない	無回答
		人数	100万円未満	100～199万円	200～299万円	300～399万円	400～499万円	500～699万円	700～999万円	1000～1499万円	1500万円以上			
社会的孤立	全体	1278	5.0	6.3	9.4	8.6	9.1	13.8	17.2	16.0	5.9	6.6	2.1	
	社会的孤立 該当	73	17.8	12.3	19.2	9.6	6.8	12.3	12.3	2.7	1.4	5.5	-	
	社会的孤立 非該当	1199	4.3	6.0	8.8	8.6	9.3	14.0	17.6	16.8	6.2	6.7	1.8	
孤独	全体	1278	5.0	6.3	9.4	8.6	9.1	13.8	17.2	16.0	5.9	6.6	2.1	
	孤独 該当	60	11.7	15.0	8.3	15.0	3.3	11.7	13.3	10.0	1.7	10.0	-	
	孤独 非該当	1206	4.7	5.9	9.5	8.4	9.4	14.0	17.5	16.3	6.1	6.5	1.7	

ケ 頼れる人がいるか事柄別でみると、愚痴を聞いてくれる人（情緒的支援者）が「いる」は全体の82.1%に対して、「社会的孤立」は46.6%、「孤独」は45.0%となっています。また、喜びや悲しみを分かち合う人（感情的共有者）が「いる」は全体の87.9%に対して、「社会的孤立」は49.3%、「孤独」は45.0%となっています。

%		問13 ④愚痴を聞いてくれること 頼れる人				
		人数	いる	いない	そのことでは 人に頼らない	無回答
社会的孤立	全体	1278	82.1	9.0	7.7	1.2
	社会的孤立 該当	73	46.6	27.4	21.9	4.1
	社会的孤立 非該当	1199	84.7	7.9	6.9	0.5
孤独	全体	1278	82.1	9.0	7.7	1.2
	孤独 該当	60	45.0	50.0	5.0	-
	孤独 非該当	1206	84.3	7.0	8.0	0.7

%		問13 ⑤喜びや悲しみを分かち合うこと 頼れる人				
		人数	いる	いない	そのことでは人に頼らない	無回答
社会的孤立	全体	1278	87.9	6.8	3.8	1.4
	社会的孤立 該当	73	49.3	28.8	17.8	4.1
	社会的孤立 非該当	1199	90.7	5.5	3.0	0.8
孤独	全体	1278	87.9	6.8	3.8	1.4
	孤独 該当	60	45.0	48.3	6.7	-
	孤独 非該当	1206	90.5	4.8	3.7	0.9

コ 行政機関やNPO等の民間団体から支援を「受けている」は全体の5.3%に対して、「社会的孤立」は6.8%、「孤独」は18.3%と多くなっています。また、「受けていない」は全体で90.8%、うち「支援の受け方がわからないため」が全体の9.1%に対して「社会的孤立」は17.5%、「孤独」は32.6%となっています。

%		問14 あなたは現在、行政機関やNPO等の民間団体から、困りごとに対する支援（対価を直接支払うものを除く。）を受けていますか。				
		人数	受けている	受けていない	わからない	無回答
社会的孤立	全体	1278	5.3	90.8	2.6	1.3
	社会的孤立 該当	73	6.8	86.3	5.5	1.4
	社会的孤立 非該当	1199	5.3	91.5	2.4	0.8
孤独	全体	1278	5.3	90.8	2.6	1.3
	孤独 該当	60	18.3	71.7	8.3	1.7
	孤独 非該当	1206	4.7	92.3	2.3	0.7

%		問14-4 【問14で2と回答した方】 その理由をお答えください。									
		人数	支援が必要でないため	支援が必要だが、我慢できる程度であるため	支援の受け方がわからないため	支援を受けるための手続きが面倒であるため	支援を受けるのが恥ずかしいと感じるため	支援を受けると相手に負担をかけるため	支援を申し込んだが断られたため（支援対象外の場合を含む）	その他	無回答
社会的孤立	全体	1160	88.4	4.8	9.1	3.4	1.4	0.9	1.0	0.7	0.8
	社会的孤立 該当	63	79.4	11.1	17.5	6.3	3.2	-	1.6	-	3.2
	社会的孤立 非該当	1097	88.9	4.5	8.7	3.3	1.3	1.0	1.0	0.7	0.6
孤独	全体	1160	88.4	4.8	9.1	3.4	1.4	0.9	1.0	0.7	0.8
	孤独 該当	43	46.5	16.3	32.6	14.0	4.7	4.7	9.3	4.7	-
	孤独 非該当	1113	89.9	4.3	8.3	3.1	1.3	0.8	0.7	0.5	0.8

サ 助けが必要な時に何らかの手助けをしない割合は、全体に比べて「社会的孤立」と「孤独」は多くなっています。（問15-①～④× 社会的孤立+孤独）

シ 地域活動・ボランティア活動等に参加する予定は「ない」割合は、どの項目においても全体に比べて「社会的孤立」と「孤独」は多くなっていますが、「趣味の会やスポーツクラブ」では参加意向が比較的多く示されています。

%		問16-⑤ 趣味の会やスポーツクラブ 参加していますか					
		人数	1年以上前から参加している	この1年以内に新たに参加するようになった	参加したいができない	参加する予定はない	無回答
社会的孤立	全体	1278	24.8	4.1	23.5	44.9	2.7
	社会的孤立 該当	73	19.2	4.1	21.9	49.3	5.5
	社会的孤立 非該当	1199	25.3	4.1	23.7	44.9	2.1
孤独	全体	1278	24.8	4.1	23.5	44.9	2.7
	孤独 該当	60	5.0	1.7	38.3	50.0	5.0
	孤独 非該当	1206	25.9	4.2	23.0	45.1	1.8

ス 寂しい気持ちを「とても感じる」（孤独）は全体で4.7%に対して「社会的孤立」

は13.7%と多くなっています。

%		問17 さみしい気持ち（孤独感）を日頃、感じますか。					
		人数	とても感じる	やや感じる	あまり感じない	感じない	無回答
社会的孤立	全体	1278	4.7	18.7	36.7	39.0	0.9
	社会的孤立 該当	73	13.7	30.1	35.6	19.2	1.4
	社会的孤立 非該当	1199	4.2	18.1	36.9	40.4	0.4
孤独	全体	1278	4.7	18.7	36.7	39.0	0.9
	孤独 該当	60	100.0	-	-	-	-
	孤独 非該当	1206	-	19.8	38.9	41.3	-

(2) 感染症によるつながりの低下

ア 新型コロナウイルスの影響で、人と直接会ってコミュニケーションをとることが「減った」が全体の79.4%に対して「30歳代」84.5%、「40歳代」83.0%となっています。他方、人と直接会わずにコミュニケーションをとることが「増えた」が全体の37.9%に対して「20歳代」55.0%、「50歳代」43.6%と多くなっています。

%		問18 ① 人と直接会ってコミュニケーションをとること コロナ感染拡大のコミュニケーションへの変化				
		人数	増えた	変わらない	減った	無回答
6年齢階層	全体	1278	1.6	18.5	79.4	0.5
	20歳代	60	3.3	23.3	73.3	-
	30歳代	220	1.4	14.1	84.5	-
	40歳代	298	1.3	14.4	83.9	0.3
	50歳代	291	1.4	19.6	79.0	-
	60歳代	239	0.4	18.8	80.3	0.4
	70歳以上	165	3.6	27.9	66.1	2.4

%		問18 ② 人と直接会わずにコミュニケーションをとること コロナ感染拡大のコミュニケーションへの変化				
		人数	増えた	変わらない	減った	無回答
6年齢階層	全体	1278	37.9	53.4	8.1	0.5
	20歳代	60	55.0	40.0	5.0	-
	30歳代	220	35.9	54.5	9.5	-
	40歳代	298	37.6	53.4	9.1	-
	50歳代	291	43.6	48.1	8.2	-
	60歳代	239	34.7	57.3	7.5	0.4
	70歳以上	165	29.1	61.2	6.7	3.0

イ 新型コロナウイルスの影響で、家族以外の親しい人との関係が「やや悪くなった/悪くなった」が全体の29.7%に対して「孤独」が43.4%と多く、また、地域・社会とのつながりが「やや悪くなった/悪くなった」が全体の34.2%に対して「孤独」が55.0%と多く、新型コロナウイルスは「孤独」でより影響が大きくなっています。

%		問19 ③ 家族以外の親しい人との関係 コロナ感染拡大の日常生活への変化						
		人数	良くなった	まあ良くなった	変わらない	やや悪くなった	悪くなった	無回答
社会的孤立	全体	1278	1.7	4.3	63.5	25.2	4.5	0.9
	社会的孤立 該当	73	-	6.8	67.1	21.9	4.1	-
	社会的孤立 非該当	1199	1.8	4.2	63.3	25.5	4.5	0.7
孤独	全体	1278	1.7	4.3	63.5	25.2	4.5	0.9
	孤独 該当	60	1.7	6.7	46.7	26.7	16.7	1.7
	孤独 非該当	1206	1.7	4.1	64.5	25.4	3.8	0.4

%		問19 ④ 地域・社会とのつながり コロナ感染拡大の日常生活への変化						
		人数	良くなった	まあ良くなった	変わらない	やや悪くなった	悪くなった	無回答
社会的孤立	全体	1278	0.8	2.6	61.6	25.7	8.5	0.9
	社会的孤立 該当	73	-	-	72.6	20.5	5.5	1.4
	社会的孤立 非該当	1199	0.8	2.8	61.1	26.2	8.6	0.6
孤独	全体	1278	0.8	2.6	61.6	25.7	8.5	0.9
	孤独 該当	60	-	-	45.0	25.0	30.0	-
	孤独 非該当	1206	0.8	2.7	62.6	26.0	7.4	0.6

ウ ひきこもり

(ア) 周りの方に「ひきこもり」の状態にある方がいるかについては、「いる」が11.0%となっており、令和元年度調査の11.3%から変化はみられません。「いる」は「社会的孤立」15.1%、「孤独」21.7%と全体より多くなっています。

%		問20 あなたやあなたの周りの方に「ひきこもり」の状態にある方はいますか。				
		人数	いる	いない	わからない	無回答
社会的孤立	全体	1278	11.0	74.4	13.0	1.6
	社会的孤立 該当	73	15.1	54.8	27.4	2.7
	社会的孤立 非該当	1199	10.8	75.8	12.1	1.3
孤独	全体	1278	11.0	74.4	13.0	1.6
	孤独 該当	60	21.7	48.3	26.7	3.3
	孤独 非該当	1206	10.5	76.0	12.3	1.2

(イ) 回答者本人が「ひきこもり」と認識している割合は全体の1.8%（全国値1.5%程度）となっています。なお、回答者の家族が「ひきこもり」と認識している割合は全体の3.0%であり、自覚していない「ひきこもり」の方を含めると1.8%より増える可能性があります。

(ウ) 「ひきこもり」の状態にある方が周りに「いる」との回答のうち、該当者が「回答者本人」は全体の16.4%に対して、「社会的孤立」63.6%、「孤独」61.5%と多くなっており、「ひきこもり」の状態にある方は日頃コミュニケーション頻度が少なく、寂しさを感じている様子が窺えます。

%		問21 「問20で1と回答した方」 その方とあなたの関係を教えてください。								
		人数	(回答者)本人	家族	親族	学校・職場などの知人	近所の人	SNSなどで知り合った人	その他	無回答
社会的孤立	全体	140	16.4	27.1	20.7	15.0	9.3	-	-	11.4
	社会的孤立 該当	11	63.6	27.3	-	-	9.1	-	-	-
	社会的孤立 非該当	129	12.4	27.1	22.5	16.3	9.3	-	-	12.4
孤独	全体	140	16.4	27.1	20.7	15.0	9.3	-	-	11.4
	孤独 該当	13	61.5	23.1	-	-	7.7	-	-	7.7
	孤独 非該当	127	11.8	27.6	22.8	16.5	9.4	-	-	11.8

(エ)「ひきこもり」の状態にある方の年齢階層は、「40歳代」が20.7%で最も多く、次いで、「20歳未満」が20.0%となっています。

(SA) 問22 「問20で1と回答した方」 その方の年齢を教えてください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	20歳未満	28	20.0
2	20歳代	18	12.9
3	30歳代	22	15.7
4	40歳代	29	20.7
5	50歳代	23	16.4
6	60歳代	11	7.9
7	70歳代	6	4.3
8	80歳以上	2	1.4
	無回答	1	0.7
N (%ベース)		140	100

(オ)「ひきこもり」の状態にある方の交流の状態については、「家族と会話はするが、家族以外の人と交流がない」が51.4%で最も多く、次いで、「人と会うことはほとんどないが、SNS、インターネット等を通じて人と交流している」が21.4%となっています。

(SA) 問23 「問20で1と回答した方」 その方の交流の状況について、お答えください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	家族ともほとんど会話がな	16	11.4
2	家族と会話はするが、家族以外の人と交流がない	72	51.4
3	人と会うことはほとんどないが、SNS、インターネット等を通じて人と交流している	30	21.4
4	趣味のために人と会うことはある	14	10.0
5	近隣住民とは交流がある	3	2.1
	無回答	5	3.6
N (%ベース)		140	100

(カ)「ひきこもり」となったきっかけは、「精神的な疾病や障がい」が29.2%、「失業・退職」が23.3%、「きっかけがわからない」が17.5%となっています。「社会的孤立」と「孤独」では「失業・退職」と「精神的な疾病や障がい」が最も多く、「失業・退職」はそれぞれ62.5%、70.0%、「精神的な疾病や障がい」はそれぞれ50.0%、60.0%となっています。

(MA) 問26 「問24で1～4を回答した方」その方がその状態になったきっかけは何ですか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	疾病や障がい（精神的なもの）	35	29.2
2	疾病や障がい（身体的なもの）	13	10.8
3	失業・退職	28	23.3
4	受験や就職で失敗した	10	8.3
5	学校や職場でのいじめや疎外感	22	18.3
6	不登校（小学校）	9	7.5
7	不登校（中学校）	16	13.3
8	不登校（高等学校）	14	11.7
9	性格的なもの	20	16.7
10	事故や犯罪	2	1.7
11	特にきっかけや理由はない	5	4.2
12	きっかけがわからない	21	17.5
13	その他	10	8.3
	無回答	0	0.0
	N（%ベース）	120	100.0

	%	問26 「問24で1～4を回答した方」その方がその状態になったきっかけは何ですか。														
		人数	疾病や障がい（精神的なもの）	疾病や障がい（身体的なもの）	失業・退職	受験や就職で失敗した	学校や職場でのいじめや疎外感	不登校（小学校）	不登校（中学校）	不登校（高等学校）	性格的なもの	事故や犯罪	特にきっかけや理由はない	きっかけがわからない	その他	無回答
社会的孤立	全体	120	29.2	10.8	23.3	8.3	18.3	7.5	13.3	11.7	16.7	1.7	4.2	17.5	8.3	-
	社会的孤立 該当	8	50.0	12.5	62.5	-	12.5	-	-	-	-	-	-	12.5	12.5	-
孤独	全体	112	27.7	10.7	20.5	8.9	18.8	8.0	14.3	12.5	17.9	1.8	4.5	17.9	8.0	-
	孤独 該当	10	60.0	40.0	70.0	-	30.0	-	-	-	30.0	-	10.0	10.0	-	-
		110	26.4	8.2	19.1	9.1	17.3	8.2	14.5	12.7	15.5	1.8	3.6	18.2	9.1	-

工 避難行動要支援者支援について

(ア) 呼びかけ等により避難を開始するかについては、「市職員、消防職員・団員、町内会役員等による避難広報呼びかけ」が79.7%で最も多く、次いで、「近所の人が避難を開始したことを確認したとき」が53.8%となっています。

(MA) 問35 あなたは下記の呼びかけ等により、避難を開始しますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	市職員、消防職員・団員、町内会役員等による避難広報呼びかけ	1019	79.7
2	近所の人が避難を開始したことを確認したとき	687	53.8
3	直接、誰かに避難を呼びかけられたとき	670	52.4
4	あくまで自分で判断し避難する	465	36.4
5	避難をしない	11	0.9
6	その他	26	2.0
	無回答	10	0.8
	N（%ベース）	1278	100.0

(イ) 近隣に住む家族以外の避難行動要支援者のためにどのような助け合いや協力ができるかについては、「安否確認」が68.5%で最も多く、次いで、「安全な場所への避難の手助け」が63.1%となっています。

(MA) 問36 大地震などの災害時に、あなたは近隣に住む家族以外の避難行動要支援者のためにどのような助け合いや協力ができますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	安否確認	875	68.5
2	安全な場所への避難の手助け	807	63.1
3	災害状況や避難情報の伝達	701	54.9
4	家族や親族への連絡生活必需品の確保	526	41.2
5	一時的な保護	398	31.1
6	介護や手当て	296	23.2
7	精神的ケア	203	15.9
8	協力できない又は難しい	90	7.0
9	わからない	163	12.8
10	その他	6	0.5
	無回答	9	0.7
	N（%ベース）	1278	100.0

(ウ) 避難行動要支援者の対策としての行政への期待で特に重要だと思うものについては、「地域での協力体制づくりの支援」が43.7%で最も多く、次いで、「おむつややわらかい食べ物等避難行動要支援者用生活支援用品を蓄える」が29.3%となって

います。

(MA) 問37 避難行動要支援者の対策として、あなたは行政に何を期待しますか。特に重要だと思うものを2つまでお選びください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	自動起動機能付きラジオなどの普及	248	19.4
2	地域での協力的体制づくりの支援	559	43.7
3	おむつややわらかい食べ物等避難行動要支援者用生活支援用品を蓄える	374	29.3
4	避難行動要支援者の世帯情報を活用し、緊急時の対応活動を行う	330	25.8
5	避難行動要支援者の世帯を訪問し、防災などの相談にのる	82	6.4
6	障がいのある方への配慮	282	22.1
7	避難所で必要な配慮がなされるよう啓発を行う	252	19.7
8	避難行動要支援者も参加した防災・避難訓練を実施する	143	11.2
9	特になし	33	2.6
10	その他	17	1.3
	無回答	17	1.3
	N (%ベース)	1278	100

オ 近所づきあい、地域づくりについて

(ア) 普段の近所づきあいについて「会えばあいさつをする程度」が44.0%、「ほとんどない」が11.3%となっています。「ほとんどない」は全体の11.8%に対して、「20歳代」38.3%、「ひとり暮らし」39.4%、「社会的孤立」38.3%、「孤独」31.7%と多くなっています。

%		問38 あなたは普段どの程度、ご近所づきあいをしていますか。							
		人数	困ったときに、助け合える人がいる	助け合うまではいかないが、親しく話をしている人がいる	地域のお祭りや季節の行事などの活動の時だけつきあう	つきあいはしているが、それほど親しくつずる程度	会えばあいさつする程度	つきあいはほとんどない	無回答
社会的孤立	全体	1278	11.3	19.0	1.1	11.7	44.0	11.8	1.2
	社会的孤立 該当	73	1.4	11.0	1.4	13.7	31.5	38.4	2.7
	社会的孤立 非該当	1199	11.8	19.5	1.1	11.6	44.9	10.2	0.9
孤独	全体	1278	11.3	19.0	1.1	11.7	44.0	11.8	1.2
	孤独 該当	60	3.3	11.7	-	13.3	38.3	31.7	1.7
	孤独 非該当	1206	11.6	19.5	1.2	11.7	44.3	10.9	0.9

(イ) 住民同士の自主的なささえあい、たすけあいの関係の必要性については、「必要だと思う」が70.1%で最も多く、次いで、「わからない」が24.2%となっています。「必要だと思う」は、「20歳代」60.0%、「ひとり暮らし」65.7%、「社会的孤立」61.6%、「孤独」48.3%と少なくなっています。

%		問39 あなたは、地域における問題や課題解決に向けた住民同士の自主的なささえあい、たすけあいの関係が必要だと思いますか。				
		人数	必要だと思う	必要だと思わない	わからない	無回答
6年齢階層	全体	1278	70.1	4.5	24.2	1.3
	20歳代	60	60.0	13.3	26.7	-
	30歳代	220	64.1	7.3	28.2	0.5
	40歳代	298	66.8	4.4	27.5	1.3
	50歳代	291	69.4	2.4	26.8	1.4
	60歳代	239	74.9	3.3	20.1	1.7
	70歳以上	165	81.8	3.0	13.3	1.8
家族構成別	全体	1278	70.1	4.5	24.2	1.3
	ひとり暮らし	175	65.7	5.7	28.0	0.6
	その他	1084	70.8	4.2	23.5	1.4

%		問39 あなたは、地域における問題や課題解決に向けた住民同士の自主的なささえあい、たすけあいの関係が必要だと思いますか。				
		人数	必要だと思う	必要だと思わない	わからない	無回答
社会的孤立	全体	1278	70.1	4.5	24.2	1.3
	社会的孤立 該当	73	61.6	8.2	30.1	-
	社会的孤立 非該当	1199	70.7	4.3	23.9	1.2
孤独	全体	1278	70.1	4.5	24.2	1.3
	孤独 該当	60	48.3	11.7	38.3	1.7
	孤独 非該当	1206	71.2	4.1	23.6	1.0

(ウ) お世話役としての地域づくりに「参加したい」が23.4%、「参加しない」が23.7%、「わからない」が51.7%となっています。「参加したい」は「社会的孤立」で15.1%と少ない一方、「孤独」で26.7%と多くなっています。

%		問40 お世話役としての地域づくりへの参加意向				
		人数	参加したい	参加したくない	わからない	無回答
社会的孤立	全体	1278	23.4	23.7	51.7	1.2
	社会的孤立 該当	73	15.1	24.7	60.3	-
	社会的孤立 非該当	1199	23.9	23.8	51.3	1.1
孤独	全体	1278	23.4	23.7	51.7	1.2
	孤独 該当	60	26.7	26.7	45.0	1.7
	孤独 非該当	1206	23.1	23.7	52.2	0.9

(エ) 地域活動・ボランティア活動等への取組意向については、「機会があれば、取り組んでもよい」が45.0%で最も多く、次いで、「取り組みたいが、できない」が23.1%となっています。「機会があれば、取り組んでもよい」は「20歳代」55.0%と多い一方、「社会的孤立」34.2%、「孤独」33.3%と少なくなっています。

%		問41 あなたは、今後、地域活動・ボランティア活動等に取り組んでいきたいと考えていますか。					
		人数	できるだけ、取り組んでいきたい	機会があれば、取り組んでもよい	取り組みたいが、できない	あまり取り組みたくない	無回答
6年齢階層	全体	1278	8.2	45.0	23.1	22.0	1.7
	20歳代	60	6.7	55.0	11.7	26.7	-
	30歳代	220	7.3	37.7	23.2	31.8	-
	40歳代	298	8.1	42.6	23.2	24.8	1.3
	50歳代	291	9.6	47.8	23.0	17.5	2.1
	60歳代	239	6.7	48.5	22.2	19.2	3.3
	70歳以上	165	9.7	44.2	29.1	14.5	2.4

%		問41 あなたは、今後、地域活動・ボランティア活動等に取り組んでいきたいと考えていますか。					
		人数	できるだけ、取り組んでいきたい	機会があれば、取り組んでもよい	取り組みたいが、できない	あまり取り組みたくない	無回答
社会的孤立	全体	1278	8.2	45.0	23.1	22.0	1.7
	社会的孤立 該当	73	2.7	34.2	28.8	32.9	1.4
	社会的孤立 非該当	1199	8.5	45.5	22.9	21.4	1.8
孤独	全体	1278	8.2	45.0	23.1	22.0	1.7
	孤独 該当	60	13.3	33.3	18.3	33.3	1.7
	孤独 非該当	1206	7.9	45.5	23.4	21.6	1.7

2 子ども市民調査

(1) 心身の健康や悩み

ア 健康状態は、「よい」が58.6%で最も多く、次いで、「ふつう」が18.2%となっています。

(SA) 問3 あなたの健康状態

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	よい	1401	58.6
2	まあよい	434	18.2
3	ふつう	448	18.8
4	あまりよくない	74	3.1
5	よくない	14	0.6
	無回答	18	0.8
	N (%ベース)	2389	100



イ 現在、悩んだり困ったりしていることは「特にない」が54.5%、「進路や将来のこと」が26.5%、「成績のこと」が22.0%、「友だちとの関係のこと」が14.3%となっています。「ほとんどできる場所がない該当者」では、「特にない」が37.2%、「進路や将来のこと」が30.3%、「成績のこと」が24.6%、「友だちとの関係のこと」が25.6%となっており、「進路や将来のこと」や「友だちとの関係のこと」悩んでいる割合が多くなっています。

%		問4 現在、悩んだり困ったりしていることはありますか。														
		人数	友だちとの関係のこと	成績のこと	進路や将来のこと	部活動(学校外でのクラブ活動をふくむ)のこと	学校生活に必要なお金のこと	生活に必要なお金のこと	塾(通信含む)や習い事に通えないこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ないこと	特にない	その他	無回答
	全体	2389	14.3	22.0	26.5	5.9	1.5	3.1	1.0	4.7	3.8	1.2	4.6	54.5	2.1	2.4
ほとんどできる場所の項目	ほとんどできる場所ある該当	2239	13.4	21.7	26.0	5.5	1.6	2.9	1.0	4.0	3.5	1.1	4.4	55.8	1.9	2.3
	ほとんどできる場所ある非該当	195	25.6	24.6	30.3	9.7	1.0	5.1	1.5	14.9	7.7	2.6	6.7	37.4	6.2	3.6

ウ 心配事や悩みを聞いてくれる人について「父親・母親」が73.0%、「友達」が65.8%の一方、「そのような人はいない」が6.9%、「無回答」が1.3%となっています。

(MA) 問5 あなたの心配事や悩みを聞いてくれる人はだれですか。



(2) 居場所、重要なこと

ア ほっとできる居場所について「自分の家(リビングなど)」が68.1%、「自分の部屋」が60.8%である一方、「ない(わからない)」が5.0%、「無回答」が0.3%となっています。

(MA) 問6 ほっとできる「居場所」はどこですか。



イ ふだんの生活の中で特に重要だと思うことについて「自分のやりたいこと(スポーツ・音楽・ファッション・趣味など)に取り組めること」が46.3%、「家族と一緒に仲良く暮らすこと」が39.3%、「暴力や言葉や態度で傷つけられないこと」が30.9%となっています。

(MA) 問7 ふだんの生活の中で特に重要だと思うことは、次のうちどれですか。



(3) 家族のケア

ア 家族の中にあなたがお世話をしている人が「いる」(ケアラー)が3.3%(小学生の5.0%、中学生の1.4%)となっています(中学生の全国値は5.7%)。

(SA) 問8 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。

No	カテゴリ	件数	(全体)%
1	いる・過去にいた	80	3.3
2	いない	2279	95.4
	無回答	30	1.3
	N (%ベース)	2389	100

イ ケアラーのお世話の対象者は、小学生では「まだ幼い」が47.7%で最も多く、次いで「年をとっている」が35.4%となっています。中学生では「高齢(65歳以上)」が46.7%で最も多く、次いで「介護(食事や身の回りのお世話)が必要」及び「身体障がい」がそれぞれ33.3%となっています。

ウ ケアラーのうちお世話の内容は、「一緒に買い物、散歩など」が47.5%で最も多く、次いで「見守り」が43.8%となっています。

エ ケアラーのうちお世話をしている回数は、「ほぼ毎日」が33.8%で最も多く、次いで、「週に3~5回」が22.5%となっています。学年別でみると、中学生では、「週に3~5日」が小学生に比べて13.3ポイント高くなっています。

		%	問12 [問8で1と回答した方] お世話をしている回数を教えてください。						
		人数	ほぼ毎日	週に3~5日	週に1~2日	1カ月に数日	その他	無回答	
問1	属性	全体	80	33.8	22.5	15.0	10.0	-	18.8
		小学生	65	33.8	20.0	18.5	7.7	-	20.0
		中学生	15	33.3	33.3	-	20.0	-	13.3

オ ケアラーのうち1日のお世話の時間数は、「1時間」が16.3%で最も多く、次いで、「2時間」が12.5%となっています。

(SA) 問13 [問8で1と回答した方] 平日にお世話はどれくらい行っていますか。1日の時間数をお答えください。

No	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0時間	2	2.5
2	1時間	13	16.3
3	2時間	10	12.5
4	3時間	7	8.8
5	4時間	1	1.3
6	5時間	1	1.3
7	6時間	0	0.0
8	7時間	2	2.5
9	8時間	0	0.0
10	9時間	0	0.0
11	10時間	2	2.5
12	11時間	0	0.0
13	12時間	1	1.3
14	13時間	0	0.0
15	14時間	0	0.0
16	15時間	0	0.0
17	16時間	0	0.0
18	17時間	0	0.0
19	18時間	1	1.3
20	19時間	0	0.0
21	20時間	1	1.3
	無回答	39	48.8
	N (%ベース)	80	100

カ ケアラーのうちお世話をしていることで、やりたいけどできないことは、「宿題

をする時間や勉強する時間が取れない」及び「自分の時間が取れない」がそれぞれ6.3%で最も多く、次いで、「十分に寝られない」が5.0%となっています。

(MA) 問14 「問8で1と回答した方」お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。



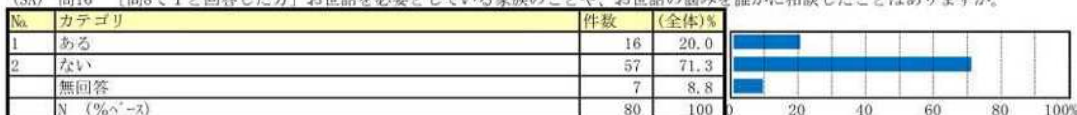
キ ケアラーのうちお世話にすることで何らかのつらさを「感じる」は12.5%、「無回答」は16.3%となっています。

(MA) 問15 「問8で1と回答した方」お世話をするにつらさを感じていますか。



ク ケアラーのうちお世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはあるかについては、「ない」が71.3%で最も多く、次いで、「ある」が20.0%となっています。

(SA) 問16 「問8で1と回答した方」お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。



ケ ケアラーのうち学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としていることは、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が10.0%で最も多く、次いで、「自由に使える時間がほしい」が7.5%となっています。

(MA) 問20 「問8で1と回答した方」学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としていることはありますか。



3 日常生活圏域ニーズ調査

(1) 日常生活圏域ごとの比較

ア 世帯類型

日常生活圏域ごとの世帯類型を比較すると、要介護者を対象とした在宅介護実態調査では、あいとぴあエリアは単身世帯の割合が最も多く、こまえ正吉苑エリアは最も少なくなっています。

また、自立・要支援・総合事業対象者を対象とした介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、あいとぴあエリアは1人暮らしが最も多く、65歳以上の配偶者との2人暮らしは、こまえ正吉苑エリアが最も多くなっています。

日常生活圏域ごとの世帯類型（在宅介護実態調査） （人、％）

	人数	単身世帯	夫婦のみ 世帯	その他	無回答
全体	273	30.0	35.5	31.9	2.6
あいとぴあエリア	67	32.8	31.3	35.8	0.0
こまえ苑エリア	98	29.6	36.7	31.6	2.0
こまえ正吉苑エリア	108	28.7	37.0	29.6	4.6
令和元年度	318	23.4	34.2	42.4	0.0

日常生活圏域ごとの世帯類別（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）（人、％）

	人数	1人暮らし	夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	息子・娘との2世帯	その他	無回答
全体	559	33.1	33.8	2.5	15.0	11.6	3.9
あいとぴあエリア	158	36.1	29.1	1.9	15.2	14.6	3.2
こまえ苑エリア	175	30.9	34.9	2.9	16.6	8.6	6.3
こまえ正吉苑エリア	226	32.7	36.3	2.7	13.7	11.9	2.7
令和元年度	608	29.8	34.2	2.1	13.4	18.5	2.1

イ 各種リスク（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の回答結果から運動器機能リスク、転倒リスク、閉じこもりリスク、口腔機能リスク、低栄養リスク、認知症リスク、うつリスクのそれぞれのリスクを有する被保険者を日常生活圏域ごとに集計すると、認知症リスクについてはあいとぴあエリアに該当者が多いことがわかりました。また、閉じこもりリスクと低栄養リスクについては、こまえ正吉苑エリアが最も多く、運動器機能リスク、転倒リスク、口腔機能リスク及びうつリスクについてはこまえ苑エリアが高くなっています。

平成31・令和元(2019)年度と比較すると、閉じこもりリスクの割合が高くなっています。

日常生活圏域ごとのリスク該当者の割合

（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）

（人、％）

	人数	運動器機能リスク	転倒リスク	閉じこもりリスク	口腔機能リスク	低栄養リスク	認知症リスク	うつリスク
全体	559	25.6	34.2	25.2	31.7	2.0	45.1	47.4
あいとぴあエリア	158	24.1	34.8	24.7	31.6	1.3	46.8	45.6
こまえ苑エリア	175	31.4	38.9	23.4	34.9	1.7	44.6	50.3
こまえ正吉苑エリア	226	22.1	30.1	27.0	29.2	2.7	44.2	46.5
令和元年度	608	32.9	38.5	20.6	33.1	3.1	48.1	50.0

※3圏域を比べて最も割合が高い箇所の色を付けています。

ウ 閉じこもりの要因（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）

「外出を控えているか」の設問に「はい（該当）」と回答した人について閉じこもりの要因を日常生活圏域ごとに比較すると、閉じこもりリスクの高いこまえ正吉苑エリアは、「その他」の割合が高くなっています。全市で平成31・令和元(2019)年度と比較しても「その他」の割合が高くなっており、「その他」を選択した多くの方が新型コロナウイルス感染症への不安を理由としてあげています。

また、外出の際の移動手段を日常生活圏域ごとに比較すると、こまえ苑エリアで「電車」や「タクシー」の割合が他の日常生活圏域と比べて高く、こまえ正吉苑エリアで「徒歩」や「路線バス」の割合が高くなっています。

閉じこもりの要因（複数回答）（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）（人、％）

	人数	病気	障がい(脳卒中の後遺症等)	足腰等の痛み	トイシの心配(失禁等)	耳の障がい(聞こえの問題等)	目の障がい	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	無回答
全体	267	10.5	1.9	48.3	12.7	6.0	5.2	15.4	4.5	4.1	43.1	2.2
あいとびあエリア	69	11.6	1.4	56.5	10.1	5.8	2.9	15.9	2.9	4.3	39.1	0.0
こまえ苑エリア	82	12.2	1.2	51.2	15.9	7.3	3.7	19.5	4.9	6.1	42.7	0.0
こまえ正吉苑エリア	116	8.6	2.6	41.4	12.1	5.2	7.8	12.1	5.2	2.6	45.7	5.2
令和元年度	187	13.4	3.2	64.7	26.2	12.8	7.5	12.3	5.9	7.0	11.8	7.0

※3圏域を比べて最も割合が高い箇所の色を付けています。

外出の際の移動手段（複数回答）（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）（人、％）

	人数	徒歩	自転車	バイク	自動車(自分で運転)	自動車(人に乗せてもらう)	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす(カート)	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全体	559	76.7	36.7	1.1	14.7	21.1	47.2	58.5	2.5	1.6	0.7	6.3	25.0	2.3	0.7
あいとびあエリア	158	74.7	40.5	1.9	12.0	20.9	48.7	50.6	2.5	1.9	0.6	5.7	24.7	0.6	0.6
こまえ苑エリア	175	73.7	37.1	0.0	20.0	20.6	50.9	53.7	2.9	1.1	0.6	8.0	27.4	5.1	1.1
こまえ正吉苑エリア	226	80.5	33.6	1.3	12.4	21.7	43.4	67.7	2.2	1.8	0.9	5.3	23.5	1.3	0.4
令和元年度	608	68.9	30.4	1.6	12.7	16.6	46.7	59.0	5.6	1.3	0.7	6.1	21.7	1.8	8.1

※3圏域を比べて最も割合が高い箇所に色を付けています。

エ 他者との関わりの程度（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の中で他者との関わりについてたずねた以下の設問について、「はい」と答えた設問数別の割合を日常生活圏域ごとに比較すると、いずれの設問にも該当しなかった人の割合がこまえ苑エリアにおいて最も高くなっています。

平成31・令和元(2019)年度と比較すると平均該当数が低くなっており、他者との関りが疎遠になっている様子が窺えます。

他者との関わりについてたずねた設問の一覧
(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)

設問	選択肢
友人の家を訪ねていますか	1. はい 2. いいえ
家族や友人の相談にのっていますか	1. はい 2. いいえ
病人を見舞うことができますか	1. はい 2. いいえ
若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい 2. いいえ

他者との関わりの程度（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査） (人、%)

	人数	該当設問数					平均 該当数
		0問	1問	2問	3問	4問	
全体	559	14.1	16.5	22.2	25.0	22.2	2.25
あいとぴあエリア	158	13.3	17.1	22.2	25.3	22.2	2.26
こまえ苑エリア	175	14.9	16.0	22.9	26.3	20.0	2.21
こまえ正吉苑エリア	226	14.2	16.4	21.7	23.9	23.9	2.27
令和元年度	608	12.5	15.1	19.6	27.8	25.0	2.38

※3圏域を比べて最も割合が高い箇所に色を付けています。

オ 地域での活動への参加意向（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）

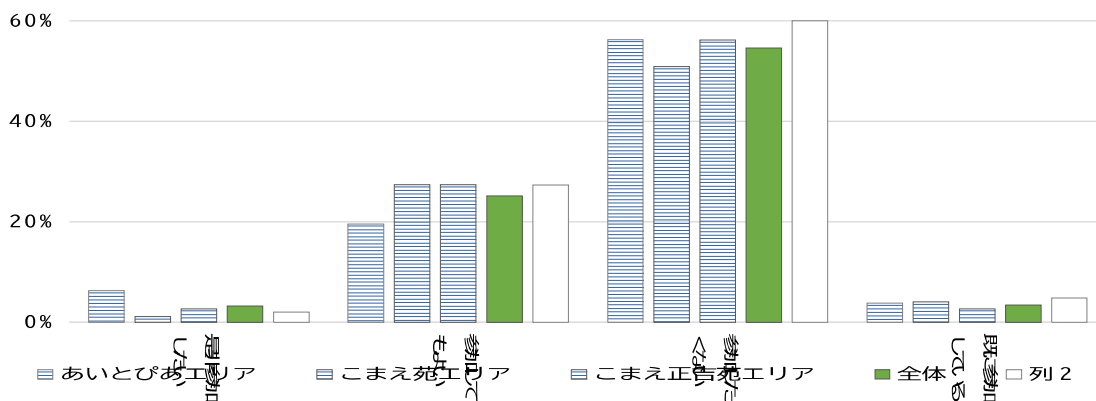
地域での活動への参加意向を日常生活圏域ごとに比較すると、参加者、企画・運営（お世話役）の両者について「是非参加したい」の割合があいとぴあエリアで最も高くなった一方で、「参加したくない」の割合もあいとぴあエリアで最も高くなっています。

また、参加者、企画・運営（お世話役）の両者について「参加してもよい」の割合は、こまえ正吉苑エリアで最も高くなっています。

地域での活動の参加意向（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）（人、％）

	参加者としての参加					企画・運営（お世話役）としての参加				
	回答者数	是非参加 したい	参加して もよい	参加した くない	既に参加 している	回答者数	是非参加 したい	参加して もよい	参加した くない	既に参加 している
全体	559	8.1	41.0	33.8	4.7	559	3.2	25.2	54.6	3.4
あいとぴあエリア	158	9.5	38.6	34.2	4.4	158	6.3	19.6	56.3	3.8
こまえ苑エリア	175	6.9	40.0	33.7	4.0	175	1.1	27.4	50.9	4.0
こまえ正吉苑エリア	226	8.0	43.4	33.6	5.3	226	2.7	27.4	56.2	2.7
令和元年度	549	6.4	44.3	42.6	6.7	543	2.0	27.3	65.9	4.8

地域での活動の参加意向（企画・運営（お世話役）として）
（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）



カ 生活支援サービスのニーズ（在宅介護実態調査）

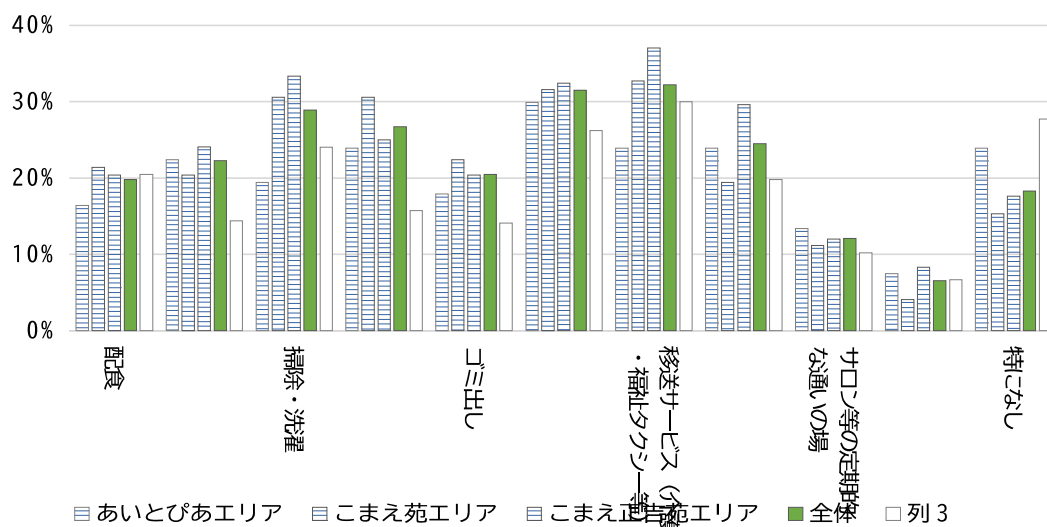
在宅介護実態調査の回答結果から生活支援サービスのニーズを日常生活圏域ごとに比較すると、こまえ苑エリアでは「配食」「買い物（宅配は含まない）」と「ゴミ出し」の割合が高く、あいとぴあエリアでは「サロン等の定期的な通いの場」、こまえ正吉苑エリアでは「調理」「掃除・洗濯」「外出同行（通院、買い物等）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー）」、「見守り、声かけ」などの割合が高くなっています。

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（在宅介護実態調査）（人、％）

	人数	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物等）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロン等の定期的な通いの場	その他	特になし	無回答
全体	273	19.8	22.3	28.9	26.7	20.5	31.5	32.2	24.5	12.1	6.6	18.3	15.8
あいとぴあエリア	67	16.4	22.4	19.4	23.9	17.9	29.9	23.9	23.9	13.4	7.5	23.9	13.4
こまえ苑エリア	98	21.4	20.4	30.6	30.6	22.4	31.6	32.7	19.4	11.2	4.1	15.3	18.4
こまえ正吉苑エリア	108	20.4	24.1	33.3	25.0	20.4	32.4	37.0	29.6	12.0	8.3	17.6	14.8
令和元年度	318	20.5	14.4	24.0	15.7	14.1	26.2	30.0	19.8	10.2	6.7	27.7	7.5

※3圏域を比べて最も割合が高い箇所には色を付けています。

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス
（在宅介護実態調査）



（2）日常生活圏域別の介護予防・生活支援ニーズ

ア あいとぴあエリア

リスク該当者の割合を年齢階層別に見ると、75～84歳の後期高齢者において、市内全体と比べて「うつリスク」の割合が高くなっています。

また、生活支援サービスのニーズを年齢階層別に見ると、市内全体と比べて「サロン等の定期的な通いの場」や「配食」の割合が高くなっています。

あいとぴあエリアのリスク該当者の割合

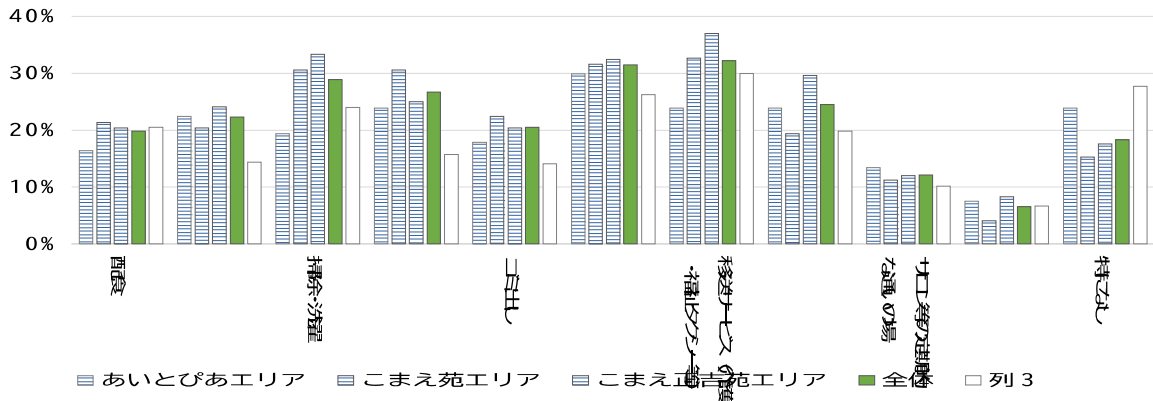
(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)

(人、%)

		人数	運動器機能 低下リスク 該当	転倒 リスク 該当	閉じこもり 傾向 リスク 該当	口腔機能 低下 リスク 該当	低栄養 リスク 該当	認知症 リスク 該当	うつ 傾向 リスク 該当
あいとぴあ エリア	全体	149	24.1	34.9	23.5	30.9	1.3	46.3	47.7
	65～74 歳	43	11.6	27.9	14.0	25.6	0.0	41.9	46.5
	75～84 歳	72	22.4	37.5	25.0	29.2	1.4	44.4	50.0
	85 歳以上	34	41.2	38.2	32.4	41.2	2.9	55.9	44.1
3 圏域 合計	全体	536	25.6	33.8	24.9	31.4	2.0	44.8	48.0
	65～74 歳	143	10.5	23.8	13.3	22.4	0.7	38.5	44.1
	75～84 歳	232	22.2	30.8	19.7	30.3	2.6	42.3	48.3
	85 歳以上	161	43.5	47.2	42.9	41.0	2.5	54.0	50.9

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

(あいとぴあエリア) (在宅介護実態調査)



【考察】

あいとぴあエリアは大部分が低層住宅地区であり、狛江駅から程近い地域も含まれ、徒歩や路線バス利用者が多い地域です。ただし、75～84 歳において運動器機能リスクや閉じこもりリスクが高く、高齢者が外出しやすい環境づくりが求められています。

また、他の日常生活圏域と比べて「単身世帯」の割合が最も多く、閉じこもりの要因として「足腰等の痛み」と回答した人の割合が多い等から、今後は地域住民が相互に声を掛けて取組む外出や定期的な通いの場等のまちづくりを進めることが考えられます。

イ こまえ苑エリア

リスク該当者の割合を年齢階層別に見ると、全ての世代において、市内全体と比べて「転倒リスク」、「閉じこもり傾向リスク」、「うつ傾向リスク」の割合が高くなっています。

また、生活支援サービスのニーズを年齢階層別に見ると、75歳未満の前期高齢者では「配食」、「調理」の割合が高く、75歳以上の後期高齢者において「外出同行」、「移送サービス」、「見守り、声かけ」の割合が高くなっています。

こまえ苑エリアのリスク該当者の割合

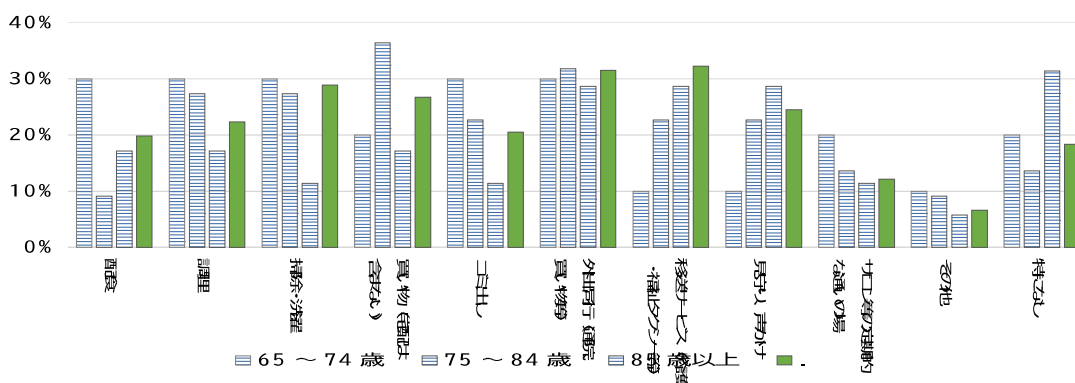
(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)

(人、%)

		人数	運動器機能リスク該当	転倒リスク該当	閉じこもりリスク該当	口腔機能リスク該当	低栄養リスク該当	認知症リスク該当	うつ病リスク該当
こまえ苑 エリア	全体	169	31.4	37.9	23.7	34.9	1.8	44.4	48.5
	65～74歳	44	13.6	27.3	13.6	18.2	2.3	31.8	36.4
	75～84歳	65	26.2	26.2	15.4	32.3	1.5	44.6	44.6
	85歳以上	60	51.7	58.3	40.0	50.0	1.7	53.3	61.7
3圏域 合計	全体	536	25.6	33.8	24.9	31.4	2.0	44.8	48.0
	65～74歳	143	10.5	23.8	13.3	22.4	0.7	38.5	44.1
	75～84歳	232	22.2	30.8	19.7	30.3	2.6	42.3	48.3
	85歳以上	161	43.5	47.2	42.9	41.0	2.5	54.0	50.9

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

(こまえ苑エリア) (在宅介護実態調査)



【考察】

こまえ苑エリアは低層・中高層住宅地区と農地が混在した地域で、交通の便が他の日常生活圏域と比べ、比較的不便であるとの評価があります。ニーズ調査では、運動器機能リスクや口腔機能リスク等が高く、閉じこもりの要因として「外での楽しみが少ない」と回答した人の割合が多い等、環境特性が高齢者の生活にも影響していることが考えられます。

また、配食、買い物、ゴミ出し等の生活支援ニーズが比較的高くなっています。そのため、今後、地域の担い手を確保し、住民相互による生活支援体制を充実していくことが考えられます。

ウ こまえ正吉苑エリア

リスク該当者の割合を年齢階層別に見ると、特に85歳以上の後期高齢者において、「閉じこもりリスク」の割合が高くなっています。さらに、65～74歳の高齢者では「うつリスク」の割合が高くなっています。

また、生活支援サービスのニーズでは、「調理」、「掃除・洗濯」、「外出同行」の割合が高くなっており、特に85歳以上の高齢者で高くなっています。

こまえ正吉苑エリアのリスク該当者の割合

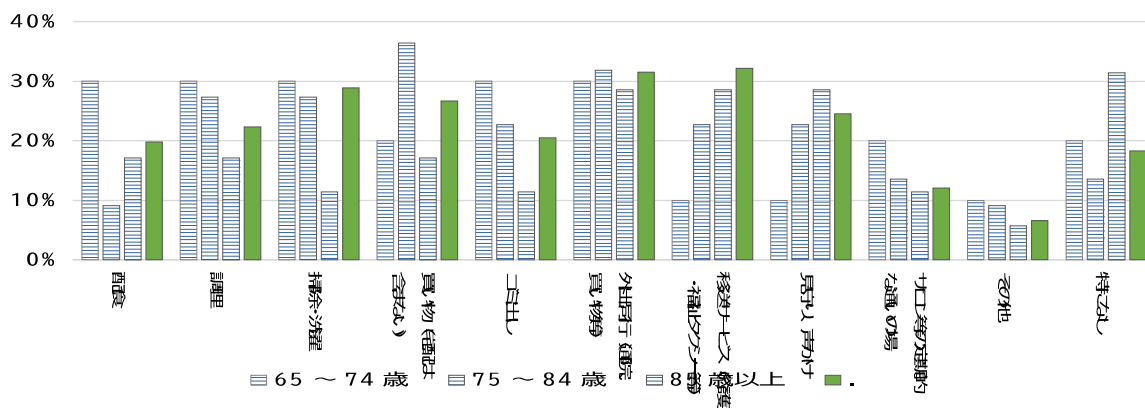
(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)

(人、%)

		人数	運動器機能リスク該当	転倒リスク該当	閉じこもりリスク該当	口腔機能リスク該当	低栄養リスク該当	認知症リスク該当	うつリスク該当
こまえ正吉苑 エリア	全体	218	22.1	30.3	27.1	29.4	2.8	44.0	47.7
	65～74歳	56	7.1	17.9	12.5	23.2	0.0	41.1	48.2
	75～84歳	95	20.0	29.5	18.9	30.5	4.2	38.9	49.5
	85歳以上	67	37.3	41.8	50.7	32.8	3.0	53.7	44.8
3圏域 合計	全体	536	25.6	33.8	24.9	31.4	2.0	44.8	48.0
	65～74歳	143	10.5	23.8	13.3	22.4	0.7	38.5	44.1
	75～84歳	232	22.2	30.8	19.7	30.3	2.6	42.3	48.3
	85歳以上	161	43.5	47.2	42.9	41.0	2.5	54.0	50.9

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

(こまえ正吉苑エリア) (在宅介護実態調査)



【考察】

こまえ正吉苑エリアも低層住宅地区と農地が中心ですが、地区内にUR神代団地(西野川)、都営狹江団地(和泉本町)等があります。ニーズ調査では後期高齢者で「閉じこもりリスク」や「低栄養リスク」が高くなっています。閉じこもりの要因として「新型コロナウイルス感染症の不安」をあげた割合が多く、不安解消に向け専門職からのアドバイス等が期待されます。

地域での活動への参加意向も他の日常生活圏域と比べて高いことから、住民主体

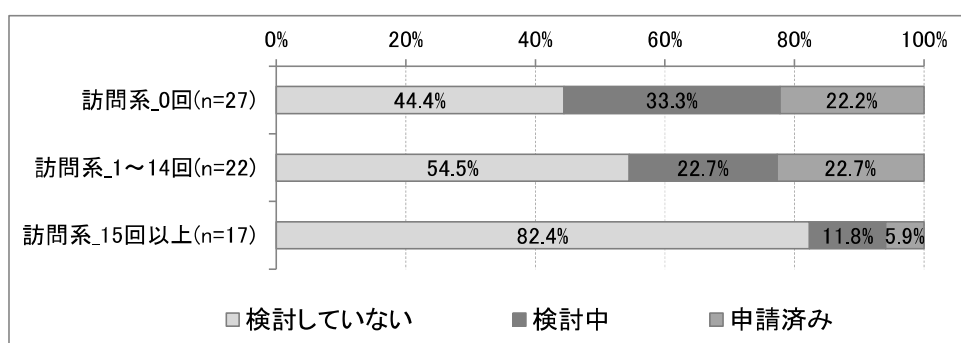
の地域活動をベースに、医療・福祉資源とも連携した、地域ネットワークを構築していくことが考えられます。

4 在宅介護実態調査

(1) 在宅介護の限界点を高めるための支援

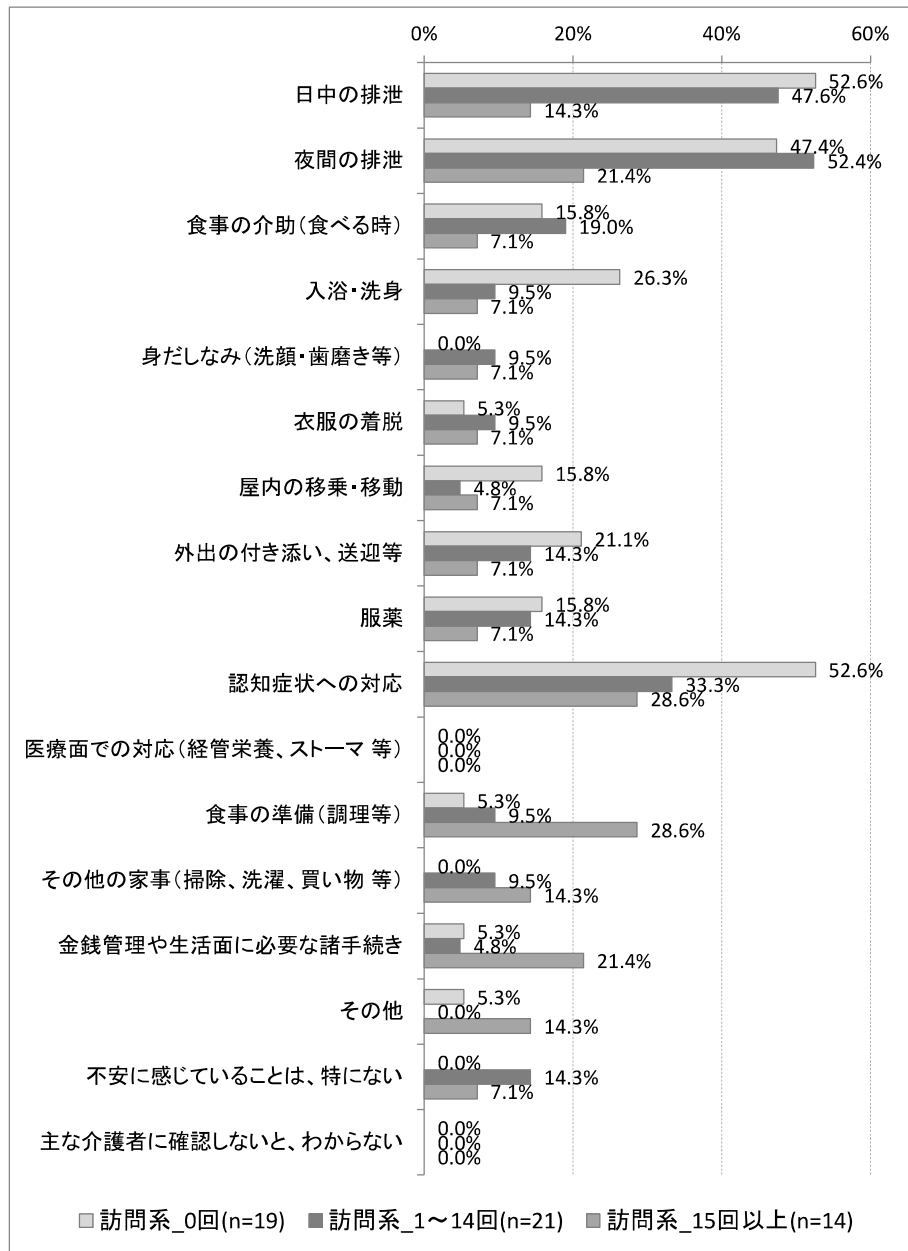
施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、施設入所を「検討していない」と回答した方の割合が、「訪問系_0回」では44.4%だったが、「訪問系_1~14回」では54.5%、「訪問系_15回以上」では82.4%となっています。

図表1 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）



介護者が不安に感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「日中の排泄」に対して不安を感じる割合は、「訪問系_0回」では52.6%、「訪問系_1~14回」では47.6%、「訪問系_15回以上」では14.3%となっています。また、「夜間の排泄」については、「訪問系_0回」では47.4%、「訪問系_1~14回」では52.4%、「訪問系_15回以上」では21.4%となっている。「認知症状への対応」については、「訪問系_0回」では52.6%、「訪問系_1~14回」では33.3%、「訪問系_15回以上」では28.6%となっています。

図表2 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



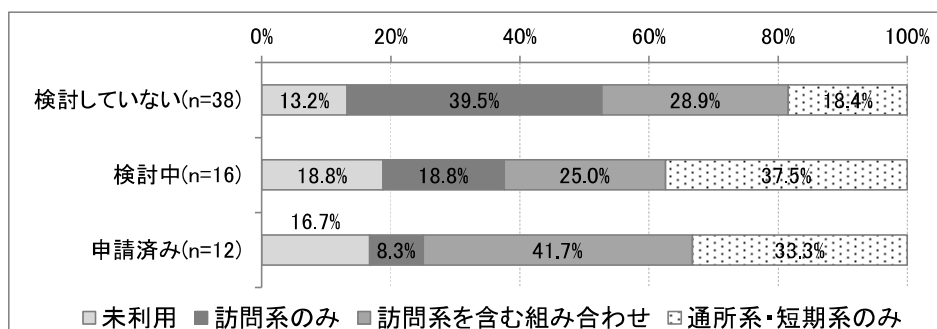
サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、施設入所を「検討していない」と回答した層では、利用サービスが「訪問系のみ」と回答した方の割合が39.5%と最も高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が28.9%、「通所系・短期系のみ」が18.4%となっています。

施設入所を「検討中」と回答した層では、利用サービスが「通所系・短期系のみ」と回答した方の割合が37.5%と最も高く、次いで「訪問系を含む組み合

わせ」が 25.0%、「未利用」、「訪問系のみ」が 18.8%となっています。

「申請済み」と回答した層では、「訪問系を含む組み合わせ」と回答した方の割合が 41.7%ともっとも高く、次いで「通所系・短期系のみ」が 33.3%、「未利用」が 16.7%となっています。

図表3 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



【考察】

訪問系サービスを頻回に利用しているケースでは、施設等を検討していない割合が多く、「認知症状への対応」や「日中・夜間の排泄」に係る介護者不安が軽減され、「不安に感じていることは、特でない」と回答した割合が高い傾向がみられました。また、要介護3以上で施設入所を検討していない方のサービス利用の組み合わせをみると、「訪問系のみ」又は「訪問系を含む組み合わせ」のサービスを利用している方の割合が高いことから、介護不安が軽減されるような訪問系サービスを充実していくことが、在宅介護の限界点を高めていくことに効果的であると考えられます。

ただし、多頻度の訪問が「認知症状への対応」に係る介護者不安の軽減に寄与する傾向がみられたことは、単にサービスが頻回に入ることによる効果ではなく、在宅での生活に専門職である介護・看護職等の目が多く入ることにより、在宅生活の環境改善が図られ、介護者の不安の軽減につながった可能性も考えられます。

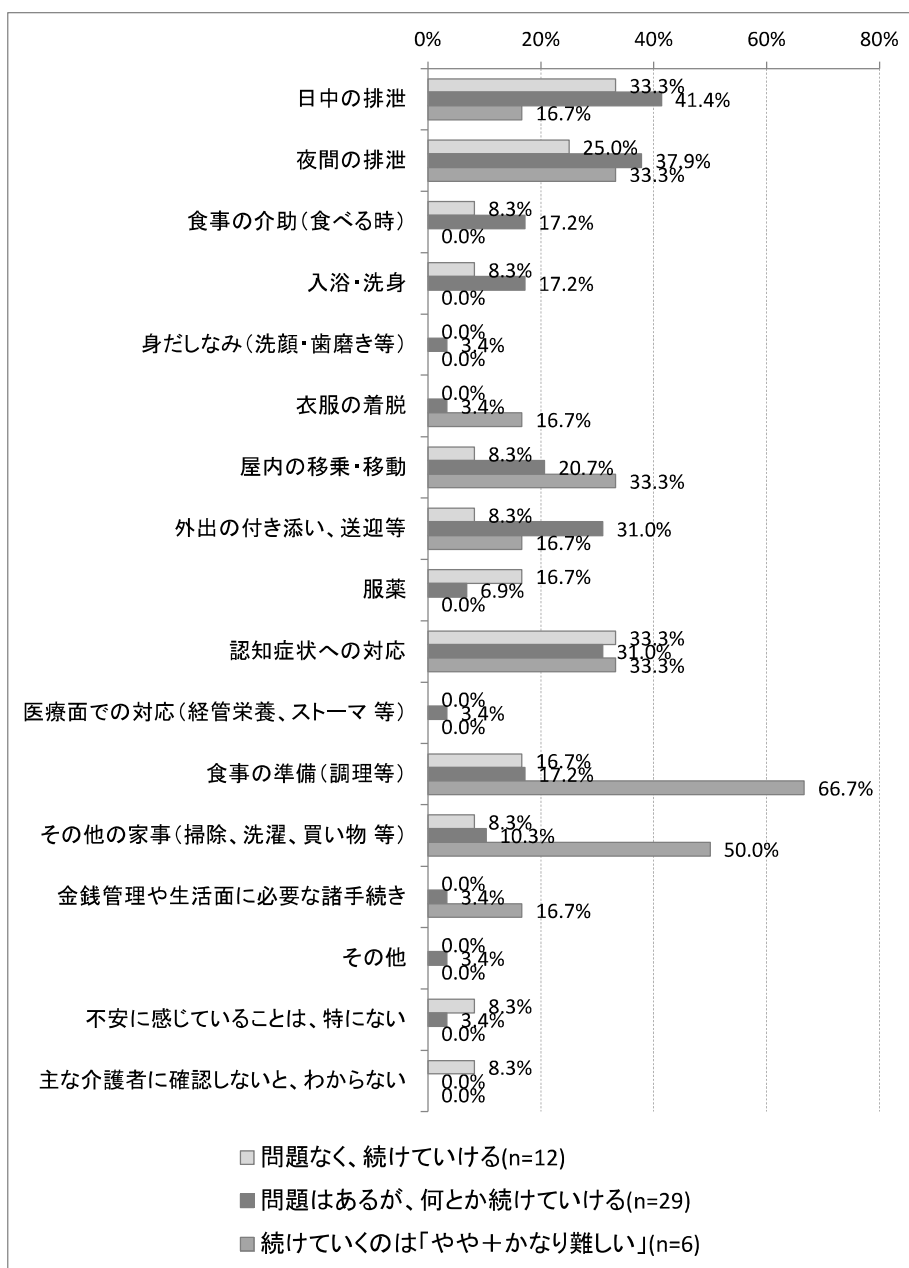
こうしたことから、「要介護者の在宅生活の継続」の達成に向けては、単にサービスの整備を推進するのではなく、「狛江市においてこのサービスの整備が必要か」といった目標に対する手段の適正性を関係者間で共有する必要があります。また、サービスの整備を推進する場合には、その効果が十分に得られるよう各専門職が果たすべき役割について、関係者間での意見交換を行っていくことなどが重要であると考えられます。

(2) 仕事と介護の両立に向けた支援

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、

「問題はあるが、何とか続けていける」と回答した層では、「日中の排泄」が41.4%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が37.9%、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」が31.0%となっています。「続けていくのは「やや+かなり難しい」と回答した層では、「食事の準備（調理等）」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が50.0%、「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」が33.3%となっています。

図表4 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



【考察】

介護をしながら仕事を継続している主たる介護者のうち、「問題はあるが、何とか続けていける」又は「続けていくのは難しい」とする層が不安を感じる介護については、「認知症状への対応」、「外出の付き添い、送迎等」、「日中・夜間の排泄」と回答した割合が高い傾向がみられました。これらの介護への不安をいかに軽減していくかが、仕事と介護の両立に向けた支援において重要であると考えられます。

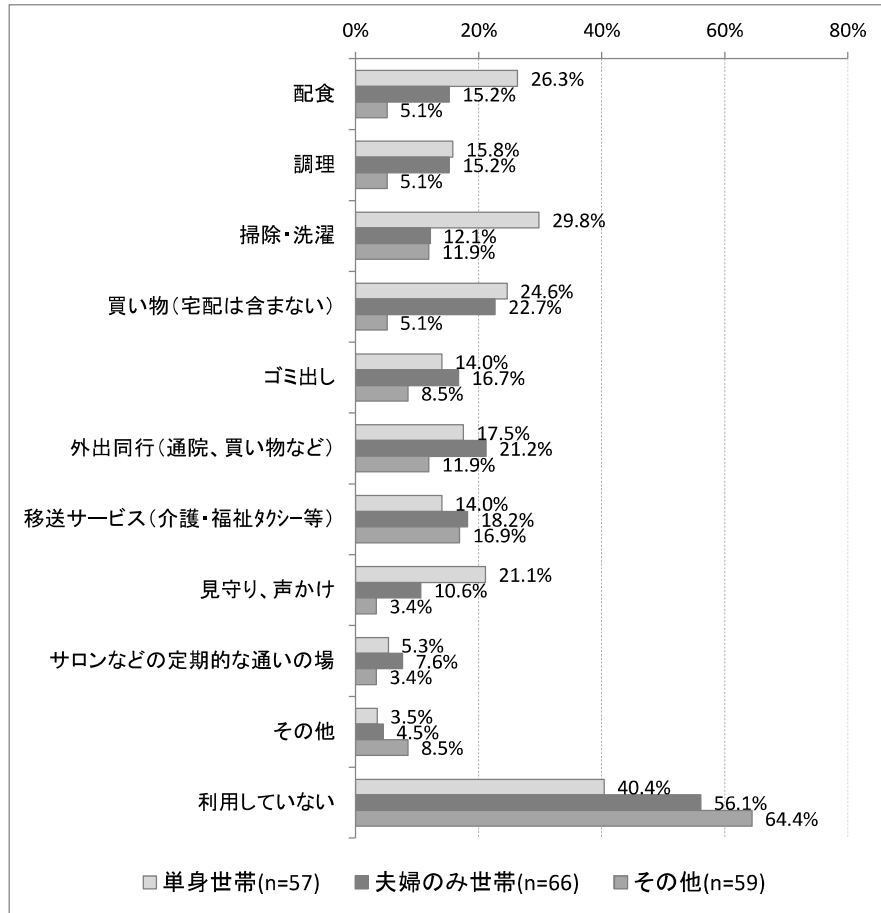
なお、仕事を「問題なく、続けていける」と回答した層は、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度の状態から、支援のニーズそのものが低い可能性もあります。そのため、施策の検討に当たっては、「問題はあるが、何とか続けていける」と回答した層に向けた介護サービスや職場への働きかけを通じた支援を考えていくことが効果的であると考えられます。

また、介護者の就労状況等により関わる介護が異なることから、介護サービスに対するニーズは、要介護者の状況だけでなく、介護者の就労状況等によっても異なる渡航えられます。介護者の多様な就労状況に合わせた柔軟な対応が可能となる訪問系サービスや通所系サービスの組み合わせなどを活用できる環境を整えることが、仕事の介護の支援につながるものとみられます。

(3) インフォーマルな地域資源の整備

保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が40.4%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が29.8%、「配食」が26.3%となっています。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が56.1%ともっとも割合が高く、次いで「買い物（宅配は含まない）」が22.7%、「外出同行（通院、買い物など）」が21.2%となっています。「その他」では「利用していない」が64.4%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が16.9%、「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」が11.9%となっています。

図表5 世帯類型別・★保険外の支援・サービスの利用状況



【考察】

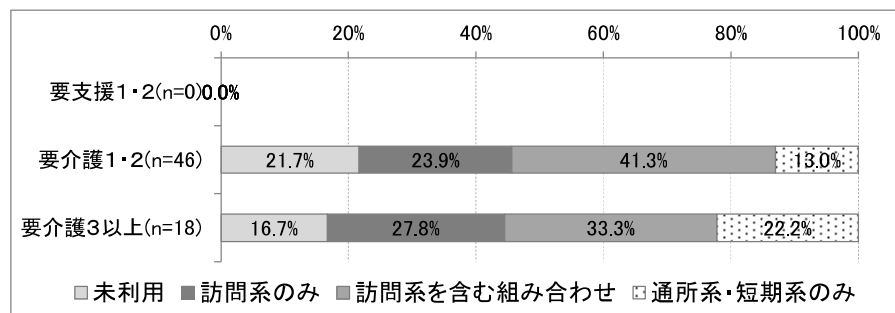
「在宅生活の継続に必要と感じる介護保険外の支援・サービス」について、「掃除・洗濯」、「買い物」、「配食」等の支援を世帯類型別にみると、「夫婦のみ世帯」や「その他世帯」よりも「単身世帯」のニーズが高い傾向がみられました。今後、「単身世帯」の増加に伴って、求められる地域支援は増大し多様化していくとみられます。

今後は、世帯類型や要介護度によって必要とされる介護保険外の支援・サービスが異なることを踏まえ、ボランティアや民間事業者を対象とした、要介護者への支援やサービス提供に係る研修会の開催を検討するなど、多様なニーズに対応できる人材の育成を進めていくことが必要であると考えられます。なお、今後必要になる介護保険外の支援・サービスを検討するに当たっては、地域ケア会議における個別ケース検討の積み上げのほか、生活支援コーディネーターや各種協議体での議論を通じ、地域資源のニーズを把握していくことが求められます。

(4) 世帯類型に応じた支援

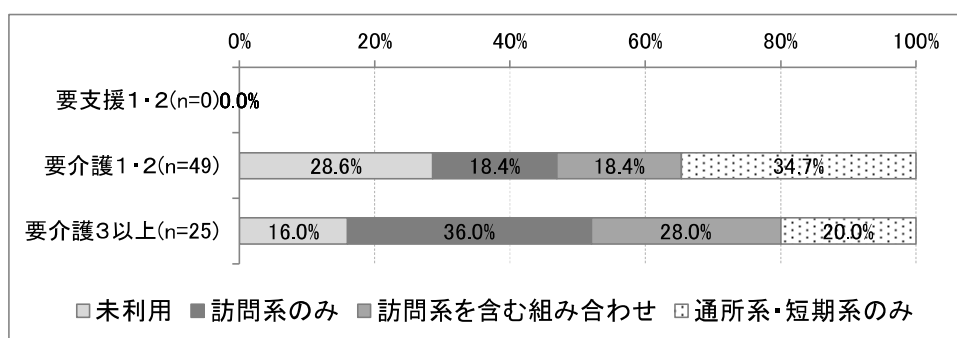
サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「訪問系を含む組み合わせ」が41.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が23.9%、「未利用」が21.7%となっています。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が33.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が27.8%、「通所系・短期系のみ」が22.2%となっています。

図表6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が34.7%と最も割合が高く、次いで「未利用」が28.6%、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が18.4%となっています。「要介護3以上」では「訪問系のみ」が36.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が28.0%、「通所系・短期系のみ」が20.0%となっています。

図表7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



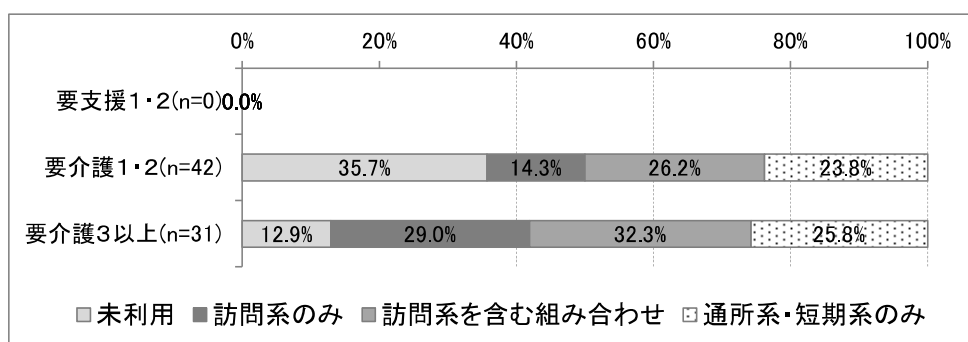
【考察】

単身世帯の方について、介護保険サービス未利用を除くと、要介護度が高くなるにつれて、「訪問系のみ」のサービス利用が増加する傾向がみられました。今後は、単身世帯の増加とともに、訪問系サービスを軸としたサービス利用が増加していく状況に備え、訪問系の支援・サービスの整備や、「訪問介護・看護の包括的サービス拠点」としての「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の整備等を進めることにより、中重度の単身世帯の方の在宅生活を支えていくことが一つの方法として考えられます。

その他、不足する地域資源等について、多職種によるワークショップや地域ケア会議におけるケース検討等を通じて、そのノウハウの集約・共有を進めること等も考えられます。

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「未利用」が35.7%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.2%、「通所系・短期系のみ」が23.8%となっています。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が32.3%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が29.0%、「通所系・短期系のみ」が25.8%となっています。

図表8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



【考察】

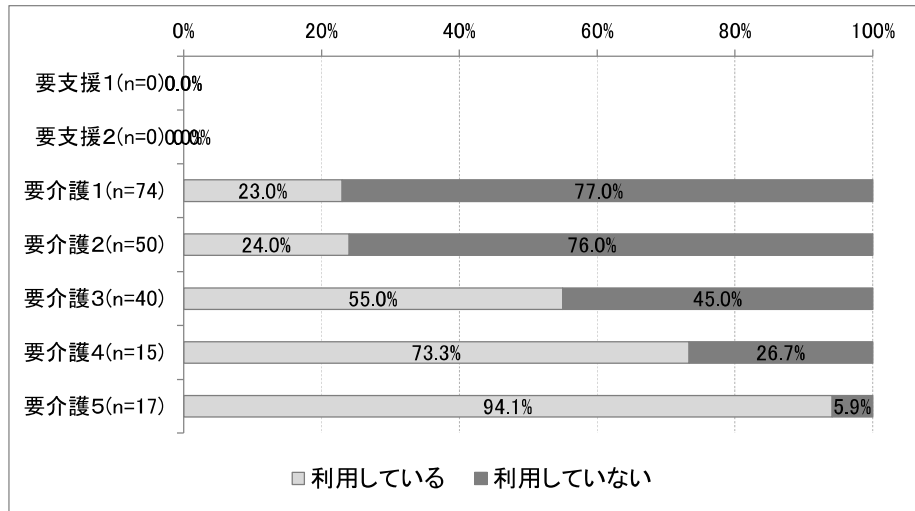
単身世帯の方について、介護保険サービス未利用を除くと、要介護度が高くなるにつれて、「訪問系のみ」のサービス利用が増加する傾向がみられました。今後は、単身世帯の増加とともに、訪問系サービスを軸としたサービス利用が増加していく状況に備え、訪問系の支援・サービスの整備や、「訪問介護・看護の包括的サービス拠点」としての「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の整備等を進めることにより、中重度の単身世帯の方の在宅生活を支えていくことが一つの方法として考えられます。

その他、不足する地域資源等について、多職種によるワークショップや地域ケア会議におけるケース検討等を通じて、そのノウハウの集約・共有を進めること等も考えられます。

(5) 医療ニーズが高い在宅生活者への支援

訪問診療の利用の有無を二次判定結果別にみると、「利用している」と回答した割合は、「要介護1」では23.0%、「要介護2」では24.0%、「要介護3」では55.0%、「要介護4」では73.3%、「要介護5」では94.1%となっています。

図表9 要介護度別・★訪問診療の利用割合



【考察】

「訪問診療の利用の有無」の結果から、要介護度が高くなるにつれて、訪問診療の利用割合が増加する傾向がみられました。

看取りまでを視野に入れた在宅生活の継続を実現するためには、在宅医療と介護の多職種連携をさらに進めていく必要があります。今後は、「医療と介護の両方のニーズを持つ在宅生活者」の大幅な増加が見込まれることから、このようなニーズに対して、いかに適切なサービス提供体制を確保していくかが重要な課題となります。医療ニーズのある利用者に対応することができる介護保険サービスとして、「訪問介護・看護の包括的サービス拠点」としての「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の整備が必要となるかを検討するとともに、在宅医療と介護連携のさらなる推進に取り組んでいく必要があります。

(6) 終末期ケアや終活について

ア 人生の最終段階が近づいたとき、過ごしたい場所として「自宅」が47.3%、「わからない」が18.3%、「施設（特別養護老人ホームや有料老人ホーム等）」が14.7%となっています。



イ 「自宅」で最期まで過ごしたいと思ったときの課題として、「介護してくれる家族に負担がかかる」が69.8%、「病気等の症状が急変した時の対応が不安」が50.4%

となっています。

(MA) A票 問16 「問15で1と回答した方」自宅で最期まで過ごしたいと思ったときに、課題は何ですか

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	介護してくれる家族に負担がかかる	90	69.8
2	病気等の症状が急変した時の対応が不安	65	50.4
3	在宅医療や訪問看護が不安	34	26.4
4	24時間体制の訪問介護が不安	25	19.4
5	介護してくれる家族がいない	10	7.8
6	その他	10	7.8
7	課題はない	9	7.0
	無回答	10	7.8
	N (%ベース)	129	100

ウ エンディングノート等を利用した「終活」について、「終活は特に考えていない」が30.4%、「わからない」が25.3%となっており、「すでに/これから終活を進めている/進めたい」方の割合は20.9%となっております。

(SA) A票 問18 エンディングノート等を利用した「終活」について考えたり、実際に進められていますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	すでに終活を進めている	26	9.5
2	これから終活を進めたい	31	11.4
3	今回終活を知ったので、これから検討したい	24	8.8
4	終活は特に考えていない	83	30.4
5	わからない	69	25.3
6	その他	10	3.7
	無回答	30	11.0
	N (%ベース)	273	100

5 障がい者調査

(1) 基本事項

ア 回答者は、「あなた（本人）」が66.7%で最も多く、次いで、「あなたの父母（配偶者の父母を含む）」が22.1%となっています。障がい種別でみると、愛の手帳を持っている方では「あなたの父母（配偶者の父母を含む）」が最も多くなっています。

	%	問1 この調査に回答される方はどなたですか。								
		人数	あなた（あなた名のご本人）	あなたの配偶者	あなたの父母（配偶者の父母を含む）	あなたの子供	あなたの兄弟姉妹	あなたの祖父母	その他	無回答
全体	276	66.7	3.3	22.1	0.4	1.4	-	5.1	1.1	
身体障害者手帳を持っている	65	56.9	7.7	24.6	1.5	4.6	-	1.5	3.1	
愛の手帳を持っている	94	29.8	1.1	54.3	-	2.1	-	12.8	-	
精神障害者保健福祉手帳を持っている	73	93.2	2.7	4.1	-	-	-	-	-	
自立支援医療を受給している	65	80.0	3.1	13.8	-	-	-	3.1	-	
発達障がいの診断を受けている	21	66.7	9.5	23.8	-	-	-	-	-	
高次脳機能障がいの診断を受けている	6	66.7	-	16.7	-	-	-	16.7	-	
難病の診断を受けている	53	92.5	5.7	-	1.9	-	-	-	-	

イ 年齢は、「50歳代」が27.5%で最も多く、次いで、「40歳代」が19.6%となっています。障がい種別でみると、愛の手帳保持者では「20歳代」、自立支援医療受給者及び難病の方では「50歳代」が最も多くなっています。

%	問3 令和4年12月1日現在のあなたの年齢	年齢									
		人数	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答
	全体	276	2.2	14.9	17.0	19.6	27.5	13.4	4.3	0.4	0.7
	身体障害者手帳を持っている	65	3.1	9.2	12.3	21.5	23.1	20.0	9.2	1.5	-
	愛の手帳を持っている	94	1.1	26.6	19.1	22.3	21.3	7.4	2.1	-	-
	精神障害者保健福祉手帳を持っている	73	1.4	9.6	17.8	20.5	31.5	17.8	1.4	-	-
	自立支援医療を受給している	65	6.2	20.0	18.5	10.8	30.8	12.3	1.5	-	-
	発達障がい診断を受けている	21	9.5	28.6	14.3	9.5	28.6	9.5	-	-	-
	高次脳機能障がい診断を受けている	6	-	-	-	-	66.7	33.3	-	-	-
	難病の診断を受けている	53	1.9	9.4	18.9	18.9	35.8	5.7	7.5	1.9	-

ウ 居住形態は、「一戸建て（持ち家）」が37.3%、次いで、「集合住宅（マンション・アパート等）（賃貸）」が22.1%となっています。一般市民調査と比較すると「一戸建て（持ち家）」で10.1ポイント少なくなっています。

(SA) 問5 あなたのお住まい

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	一戸建て（持ち家）	103	37.3
2	集合住宅（マンション・アパート等）（持ち家）	51	18.5
3	一戸建て（賃貸）	3	1.1
4	集合住宅（マンション・アパート等）（賃貸）	61	22.1
5	公営住宅（市営・都営住宅等）	23	8.3
6	グループホーム	17	6.2
7	入所施設	12	4.3
8	医療機関に入院（3カ月以上）	1	0.4
9	その他	2	0.7
	無回答	3	1.1
	N（%ベース）	276	100

エ 障害支援区分は、「区分3」が12.7%で最も多く、次いで、「区分2」が12.3%となっています。「非該当・未申請」は、平成31・令和元(2019)年度の皆無に対して令和4年度は22.1%となっています（アンケート調査の対象者見直し）。

(SA) 問6 障害支援区分は何ですか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	区分1	10	3.6
2	区分2	34	12.3
3	区分3	35	12.7
4	区分4	15	5.4
5	区分5	19	6.9
6	区分6	28	10.1
7	非該当・未申請	61	22.1
	無回答	74	26.8
	N（%ベース）	276	100

オ 今後、希望する住まいについては、「家族と一緒に一戸建て」が27.9%、次いで、「家族と一緒に集合住宅（マンション・アパート等）」が17.0%となっています。障がい種別でみると、愛の手帳保持者で「グループホーム」が37.2%となっています。

%	問7 あなたは今後、だれとどのようなお住まいで生活したいと思いますか												
	人数	家族と一緒に一戸建て	家族と一緒に集合住宅(マンション・アパート等)	家族と一緒に公営住宅(市営・都営住宅等)	ひとり暮らしで一戸建て	ひとり暮らしで集合住宅(マンション・アパート等)	ひとり暮らしで公営住宅(市営・都営住宅等)	グループホーム	入所施設	その他	わからない	無回答	
全体	276	27.9	17.0	5.1	2.2	10.5	4.7	14.9	3.6	0.4	12.0	1.8	
属性の項目													
身体障害者手帳を持っている	65	35.4	20.0	6.2	-	4.6	3.1	12.3	6.2	-	9.2	3.1	
愛の手帳を持っている	94	21.3	9.6	4.3	2.1	1.1	2.1	37.2	8.5	-	12.8	1.1	
精神障害者保健福祉手帳を持っている	73	19.2	12.3	9.6	2.7	21.9	12.3	4.1	-	-	16.4	1.4	
自立支援医療を受給している	65	26.2	10.8	7.7	3.1	10.8	9.2	13.8	1.5	-	13.8	3.1	
発達障がいの診断を受けている	21	28.6	9.5	4.8	-	4.8	4.8	28.6	-	-	14.3	4.8	
高次脳機能障がいの診断を受けている	6	33.3	-	16.7	-	16.7	-	16.7	-	-	16.7	-	
難病の診断を受けている	53	39.6	32.1	3.8	-	15.1	1.9	1.9	-	-	5.7	-	

カ 同居している人は、「ひとり暮らし」が23.2%、「75歳以上の方」が22.1%と多くなっています。平成31・令和元(2019)年度と比較すると、「配偶者」は5.1ポイント低くなっています。

(MA) 問8 ご自身も含め、ご家族(同居)の中に次の方はいますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	ひとり暮らし	64	23.2
2	配偶者	55	19.9
3	75歳以上の方	61	22.1
4	乳幼児(3歳未満)	3	1.1
5	未就学児(3歳以上)	8	2.9
6	小学生	6	2.2
7	中学生・高校生	16	5.8
8	1～7に該当する方はいない	69	25.0
9	その他	31	11.2
	無回答	13	4.7
	N (%ベース)	276	100

キ 所持している手帳や受けている診断名は、「愛の手帳」が34.1%で最も多く、次いで、「精神障害者保健福祉手帳」が26.4%となっています。平成31・令和元(2019)年度と比較すると、「精神障害者保健福祉手帳」は4.7ポイント高くなっており、「身体障害者手帳」は4.1ポイント低くなっています。

(MA) 問9 お持ちの手帳又は受けている診断名等は何か。また、手帳の等級

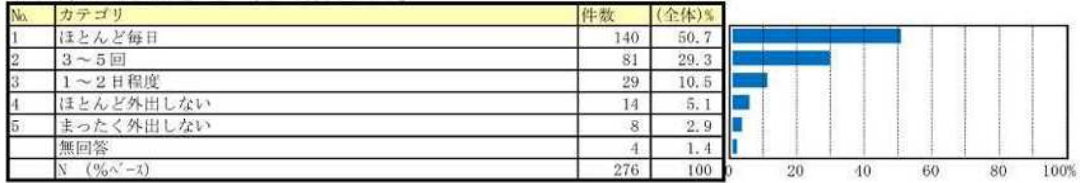
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	身体障害者手帳を持っている	65	23.6
2	愛の手帳を持っている	94	34.1
3	精神障害者保健福祉手帳を持っている	73	26.4
4	自立支援医療を受給している	65	23.6
5	発達障がいの診断を受けている	21	7.6
6	高次脳機能障がいの診断を受けている	6	2.2
7	難病の診断を受けている	53	19.2
8	その他	3	1.1
	無回答	4	1.4
	N (%ベース)	276	100

(2) 外出・ひきこもり

ア 外出の頻度は、「ほとんど毎日」が50.7%で最も多く、次いで、「3～5回」が29.3%となる一方、「1～2日」10.5%、「ほとんど外出しない」5.1%、「まったく外

出しない」2.8%となっています。

(SA) 問12 あなたは週にどのくらい外出しますか。



イ 「ひきこもり」(6か月以上状態継続)の方が30.8%となっており、一般市民の周囲認知率9.2%と比べて多くなっています。

(SA) 問13 外出の理由は何ですか。

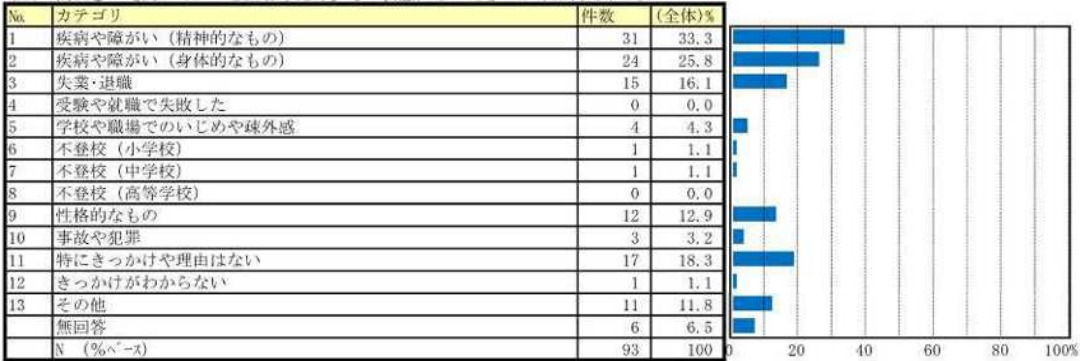


(SA) 問14① 「問13で2～5と回答した方」その状態になってどのくらい続いていますか。



ウ 「ひきこもり」の方のうち、そのきっかけは、「精神的な疾病」が33.3%、「身体的な疾病」が25.8%、「特にない」が18.3%となっています。

(MA) 問14② 「問13で2～5と回答した方」その状態になったきっかけは何ですか。

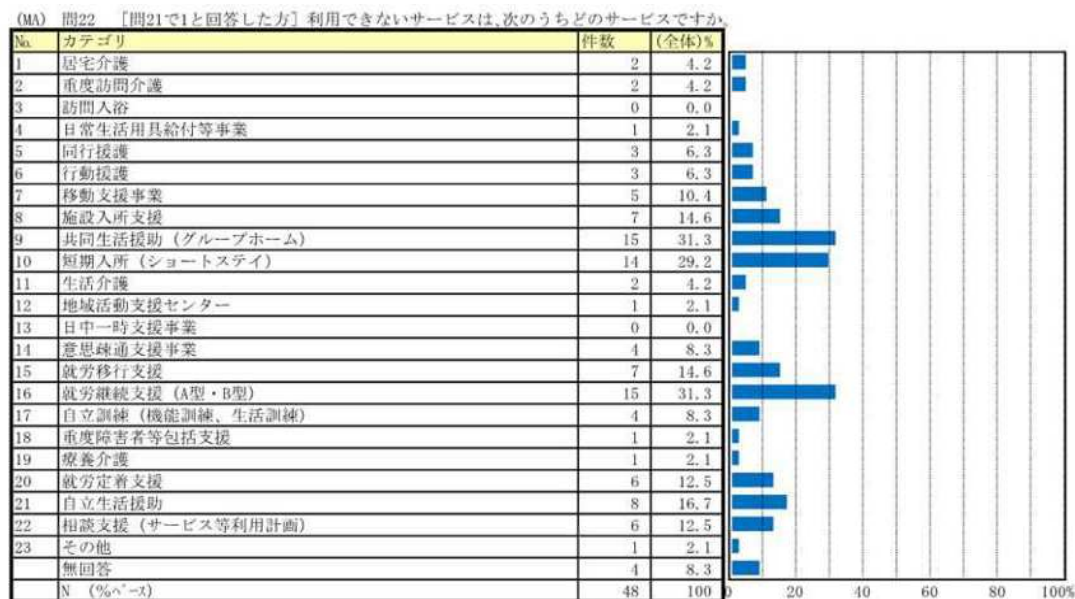


(3) 福祉サービス・施策

ア 今後の優先して充実すべき障がい福祉サービス等については、「住まいに関すること」が34.4%で最も多く、次いで、「サービスの利用に関する相談、計画に関すること」が31.5%となっています。

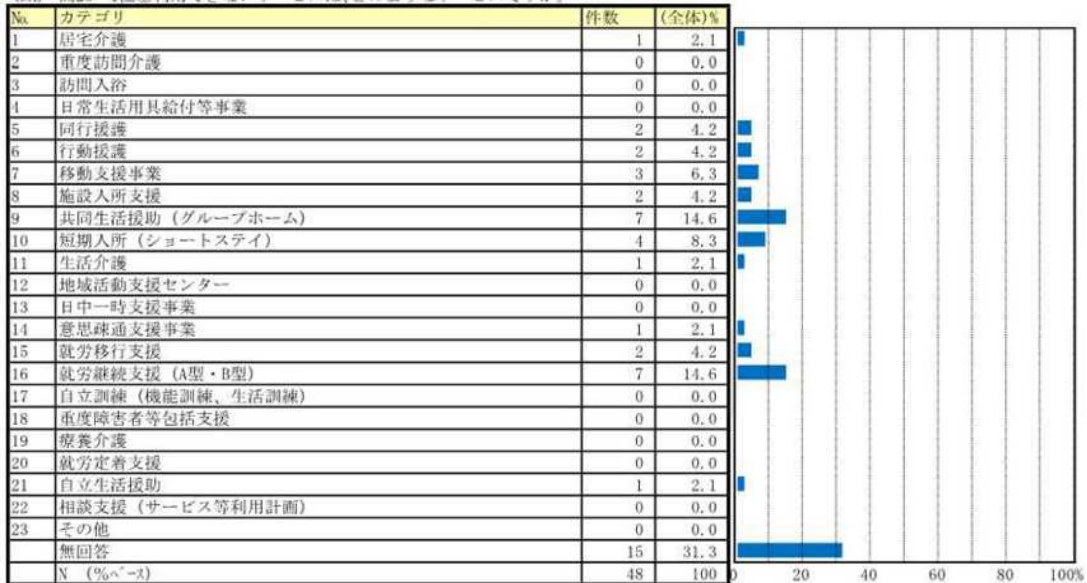


イ 利用したいが利用できないサービスが「ある」は17.4%となっています。うち、グループホーム、ショートステイ、就労継続支援（A型・B型）がそれぞれ31.3%、29.2%、31.3%となっています。



ウ 利用できないサービス（第1位）は、「共同生活援助（グループホーム）」及び「就労継続支援（A型・B型）」が最も多く、それぞれ14.6%となっています。

(SA) 問23 1位①利用できないサービスは、どのようなサービスですか。



エ 利用できないサービスの補い方（第1位）は、「家族が介助・支援している」が33.3%で最も多く、次いで「相談支援専門員に相談している」が22.9%となっています。

(MA) 問23 1位②どのように補っていますか。

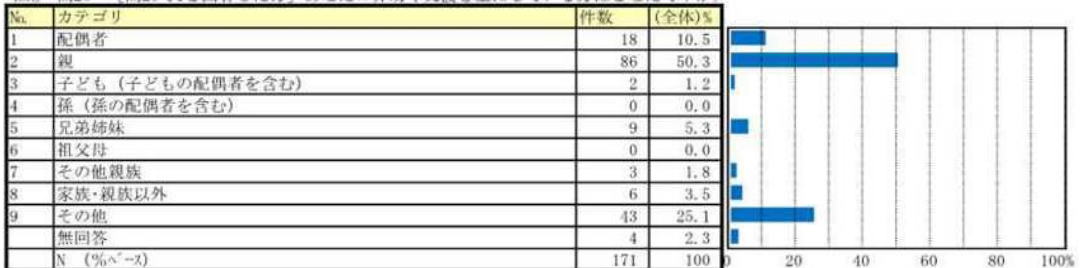


オ 介助や支援をするひとが「いる」は62.0%。うち、「親」が50.3%となっています。

(SA) 問25 あなたには、あなたの介助や支援をする方がいますか。



(SA) 問26 [問25で1と回答した方] あなたの介助や支援を主にしている方はどなたですか。



カ 相談支援事業所を利用したことが「ない」は48.6%。うち、「相談支援事業所を知らない」が53.0%となっています。

(SA) 問31① あなたは相談支援事業所を利用したことがありますか。



(MA) 問31② 「問31①で2と回答した方」利用しない方はその理由は何ですか。



キ 福祉に関する困りごとがあった場合の相談先については、「家族・親族」が54.7%で最も多く、次いで、「市役所」が31.5%となっています。

(MA) 問30 高齢者・障がい者・子育て・福祉に関する生活での困りごとがあった場合、あなたは主にどこに相談しますか。



(4) 日常生活の困りごとと支援の状況

ア コミュニケーションを行う上で困ることは、「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」が31.9%、「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」が30.4%、「複雑な文章表現がわかりにくい」が25.7%となっています。特に「差別を感じる該当者」でそれぞれ49.0%、53.1%、41.8%と全体より多くなっており、コミュニケーションの取り難さが差別を感じる一因となっている可能性が考えられます。

(MA) 問17 コミュニケーションを行う上で困ることはどのようなことですか



イ 日常生活で「1人で全部できる」の割合が最も多いのは「寝返りをする」(81.9%)であり、次いで、「家の中を移動する」(80.1%)、「トイレを使う」(73.2%)となっています。一方、「全部手助けが必要」の割合が最も多いのは、「お金の管理」(27.9%)であり、次いで、「家事をする」(26.4%)となっています。

(SA) 問24 (6) 寝返りをする



(SA) 問24 (7) 家の中を移動する



(SA) 問24 (3) トイレを使う



(SA) 問24 (11) お金の管理



(SA) 問24 (2) 家事をする



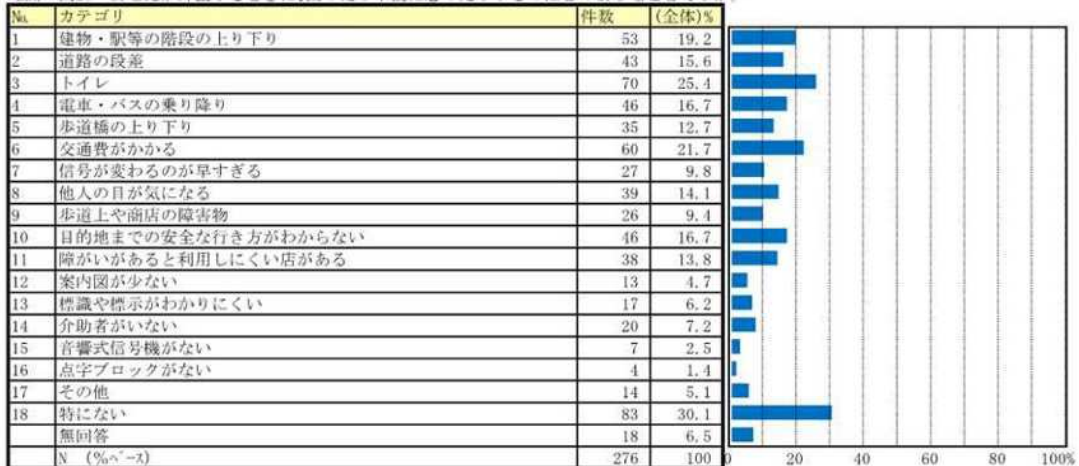
ウ 介助や支援をする方がいるかどうかについては、「いる」が62.0%で最も多く、次いで、「介助や介護は必要ない」が21.7%となっています。「いない」は12.7%と平成31令和元(2019)年度の17.6%より4.9ポイント低下しています。

(SA) 問25 あなたには、あなたの介助や支援をする方がいますか。



エ 外出するときに困ったり不便に思ったりすることは、「トイレ」が25.4%で最も多く、次いで、「交通費がかかる」が21.7%となっています。

(MA) 問28 あなたが外出するときに、困ったり不便に思ったりするのはどのようなことですか。



オ 日々の生活の中でどのような悩みや不安を感じることは、「健康のこと」が66.7%で最も多く、次いで、「老後のこと」が62.0%となっています。「発達障がい」で「人とのつきあいに関すること」が66.7%と多くなっています。

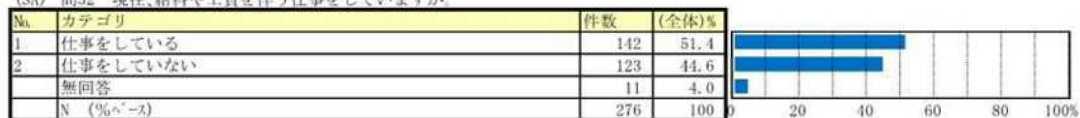
(MA) 問29 ご家族は、日々の生活の中でどのような悩みや不安を感じることがありますか。



(5) 就労等の状況

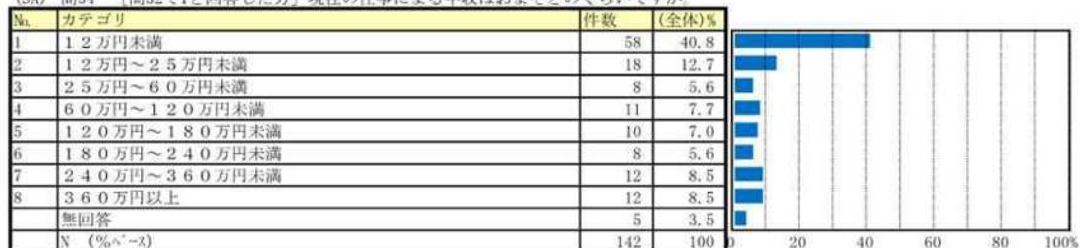
ア 「仕事をしている」が51.4%で最も多く、次いで、「仕事をしていない」が44.6%となっています。障がい種別でみると「仕事をしている」は「愛の手帳」で58.5%と多く、「身体障害者手帳」で36.9%と少なくなっています。

(SA) 問32 現在、給料や工賃を伴う仕事をしていますか。



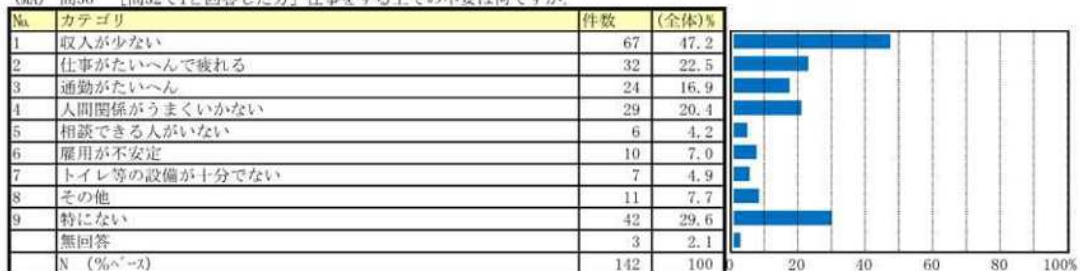
イ 現在仕事をしている方について仕事の年収は、「12万円未満」が40.8%で最も多く、次いで、「12万円～25万円未満」が12.7%となっています。

(SA) 問34 [問32で1と回答した方] 現在の仕事による年収はおよそどのくらいですか。



ウ 現在仕事をしている方について仕事をする上での不安は、「収入が少ない」が47.2%で最も多く、次いで、「仕事がたいへんで疲れる」が22.5%となっています。

(MA) 問36 [問32で1と回答した方] 仕事をする上での不安は何ですか。



エ 現在仕事をしていない方について仕事をしていない主な理由は、「重い障がいの

ため」が29.3%で最も多く、次いで、「病気のため（入院を含む）」が24.4%となっています。

(MA) 問37 「問32で2と回答した方」仕事をしていない主な理由は、次のうちどれですか。



オ 仕事を（続ける）ために、必要だと思うことは、「仕事に役立つ技術や知識を学ぶこと」が33.3%で最も多く、次いで、「仕事につくために必要な情報を得ること」が28.6%となっています。

(MA) 問42 仕事を（続ける）ために、必要だと思うことは何ですか。



(6) 障がい者差別

ア 障がいがあることで差別を感じたり嫌な思いをしたりすることが「よくある」が10.1%、「時々ある」が25.4%となっています。「回答者が父母」について「よくある」が13.1%、「時々ある」が36.1%と多くなっています。

(SA) 問46 あなたは障がいがあることで、差別を感じたり嫌な思いをしたりしたことがありますか。



(7) 地域とのつながり

ア 普段の近所づきあいについて「会えばあいさつをする程度」が33.3%、「ほとんどない」が29.0%となっています。「ほとんどない」は、「ひきこもり」で40.8%と多くなっています。

(SA) 問43 普段どの程度、ご近所つきあいをしていますか。



イ 近所つきあいをしていない方についてその理由は、「普段つきあう機会がないから」が36.3%で最も多く、次いで、「その他」が20.0%となっています。

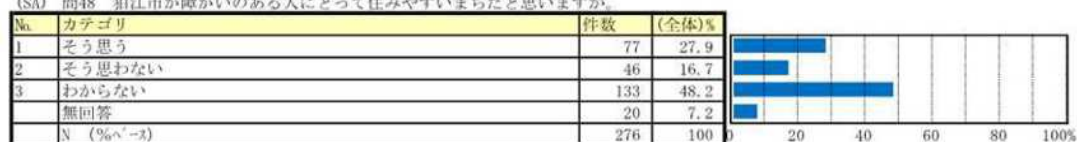
(SA) 問44 「問43で6と回答した方」近所つきあいをしていない理由は何ですか。



ウ 利用している施設は、「あいとぴあセンター」が29.3%で最も多く、次いで、「中央図書館・西河原公民館図書室・地域センター（野川、岩戸、上和泉、南部）図書室」が12.3%となっています。

エ 狛江市が障がいのある人にとって住みやすいまちだと思うかについては、「わからない」が48.2%で最も多く、次いで、「そう思う」が27.9%、「そう思わない」が16.7%となっています。令和元年度と比較して「そう思う」25.0%から2.9ポイント増加、「そう思わない」21.4%から4.7ポイント減少しています。

(SA) 問48 狛江市が障がいのある人にとって住みやすいまちだと思いますか。



6 障がい児調査

(1) 基本事項

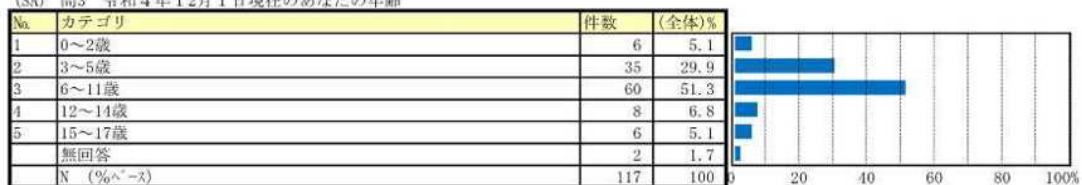
ア 調査の回答者は、「あなたの父母」が88.9%で最も多く、次いで、「あなた（あて名のご本人）」が5.1%となっています。

(SA) 問1 この調査に回答される方はどなたですか。



イ 年齢は、「6～11歳」が51.3%で最も多く、次いで、「就学前」が35.0%となっています。

(SA) 問3 令和4年12月1日現在のあなたの年齢



ウ 就学前の方が通っているところは、「どこにも通っていない(自宅)」が73.2%で最も多く、次いで、「児童発達支援」が41.5%となっています。

(MA) 問5 あなたが通っているところはありませんか(就学前)



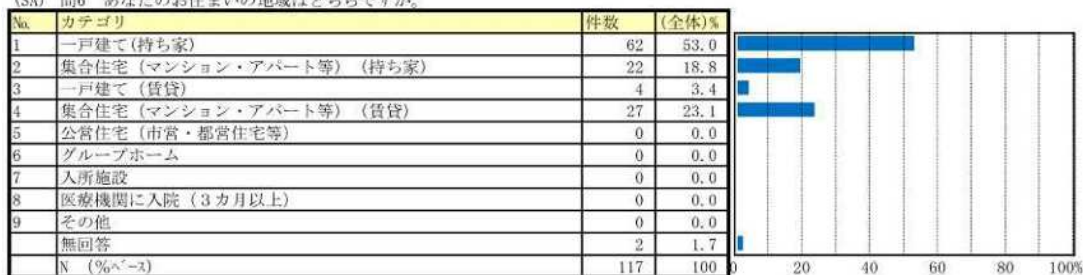
エ 小学校・中学校の方が通っているところは、「通常学級+通級学級(教室)」が48.5%で最も多く、次いで、「特別支援学級」が23.5%となっています。

(SA) 問5 あなたが通っているところはありませんか(小学校・中学校)



オ 居住形態は、「一戸建て（持ち家）」が53.0%で最も多く、次いで、「集合住宅（マンション・アパート等）（賃貸）」が23.1%となっています。

(SA) 問6 あなたのお住まいの地域はどちらですか。



カ お持ちの手帳や受けている診断名等は、「児童発達支援又は放課後等デイサービスを利用している」が81.2%で最も多く、次いで、「発達障がいの診断を受けている」が26.5%となっています。

(MA) 問9 お持ちの手帳又は受けている診断名等は何ですか。また、手帳の等級をご記入ください。



(2) 外出頻度、ひきこもり

ア 外出の頻度は、「ほとんど毎日」が83.8%で最も多く、次いで、「3～5回」が6.8%となっています。「1～2日」が6.8%、「ほとんど外出しない」が4.3%、「まったく外出しない」が0.9%となっており、週2日以下の外出頻度の「閉じこもり」傾向は、12.0%となります。

(SA) 問13 あなたは週にどのくらい外出しますか。



イ 「ひきこもり」(ただし、ひきこもり期間について無回答が3分の2であり、ここでは期間判定基準を含めていない。)の方が7.7%となっています。(ひきこもりのきっかけについても無回答が3分の2)

(3) 福祉サービス

ア 現在利用している障がい福祉サービス等は、「放課後デイサービス」が54.7%で最も多く、次いで、「児童発達支援」が41.9%となっています。

(MA) 問17 あなたが、現在利用している障がい福祉サービス等は何ですか。



イ 今後、利用してみたい、又は利用を継続したい障がい福祉サービスは、「放課後等デイサービス」が66.7%と最も多く、次いで、「児童発達支援」が38.5%となっています。

(MA) 問18 今後、利用してみたい、又は利用を継続したい障がい福祉サービス



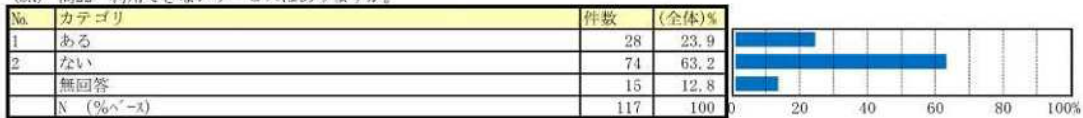
ウ 今後、狛江市が取り組む障がい福祉サービス等で優先して充実すべきことは、「子どもの発達支援等に関すること」が84.6%と最も多く、次いで、「サービスの利用に関する相談、計画に関すること」が42.7%となっています。

(MA) 問21 今後、狛江市が取り組む障がい福祉サービス等で、次のうちどれを優先して充実すべきだとお考えですか。



エ 狛江市が提供する障がい福祉サービス等で、近隣に当該サービスを提供する事業所がないため、利用できないサービスについて、「ある」が23.9%、「ない」が63.2%となっています。

(SA) 問22 利用できないサービスはありますか。



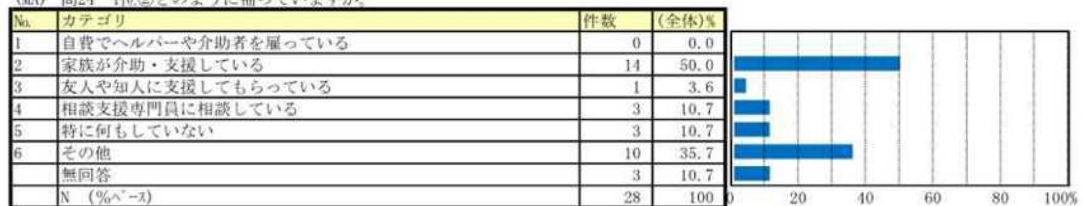
オ 利用できないサービスについて、そのサービスは、「放課後デイサービス」が39.3%で最も多く、次いで「相談支援（サービス等利用計画）」が28.6%となっています。

(MA) 問23 「問22で1と回答した方」利用できないサービスは、次のうちのサービスですか。



カ 利用できないサービス（第1位）の補い方は、「家族が介助・支援している」が50.0%で最も多く、次いで「その他」が35.7%となっています。

(MA) 問24 1位②どのように補っていますか。



キ 困ったときに相談できる場所の認知度は、「知っている」が77.8%、「知らない」が9.4%となっています。「知っている」は令和元年度の72.9%より4.0ポイント増加しています。

(SA) 問25 あなたは、困ったときに相談できる場所をご存じですか。

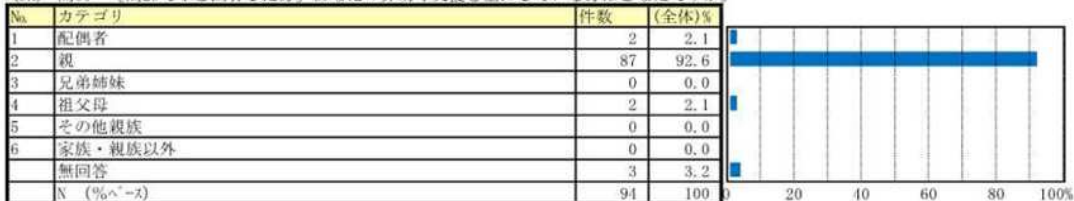


ク 介助や支援をするひとが「いる」は80.3%。その内「親」が92.6%となっています。

(SA) 問29 あなたには、あなたの介助や支援をする方がいますか。



(SA) 問30 「問29で1と回答した方」あなたの介助や支援を主にしている方はどなたですか。



ケ 福祉に関する生活での困りごとがあった場合の相談先は、「家族・親族」が70.9%で最も多く、次いで「保育園、幼稚園、認定こども園、学校」が39.3%となっています。

(MA) 問33 高齢者・障がい者・子育て・福祉に関する生活での困りごとがあった場合、あなたは主にどこに相談しますか。



(4) 社会的包摂

ア コミュニケーションを行う上で困ることは、「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」が30.8%、「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」が29.1%、「複雑な文章表現がわかりにくい」が35.9%となっています。特に「愛の手帳保持者」で「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」が48.0%、「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」が60.0%、「複雑な文章表現がわかりにくい」が56.0%と多くなっています。

%		問20 コミュニケーションを行う上で困ることはどのようなことですか。												
人数		案内表示がわかりにくい	音声情報が少ない	文字情報が少ない	パソコン、携帯電話、スマートフォン等をうまく使いこなせない	自分の伝えたいことを代弁してくれる支援者が少ない	問い合わせ先やメールアドレスの記載がない	話をうまく組み立てられない、うまく質問できない	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい	複雑な文章表現がわかりにくい	その他	特に困ることはない	無回答	
5障がい区分の項目	全体	117	2.6	0.9	1.7	3.4	15.4	-	30.8	29.1	35.9	9.4	19.7	16.2
	身体障害者手帳	14	14.3	-	-	14.3	14.3	-	14.3	7.1	21.4	14.3	14.3	21.4
	愛の手帳	25	8.0	-	4.0	12.0	28.0	-	48.0	60.0	56.0	4.0	4.0	8.0
	児童発達支援・デイのみ	47	-	-	-	2.1	8.5	-	25.5	19.1	23.4	12.8	31.9	12.8
	発達障がいその他	31	3.2	3.2	3.2	3.2	29.0	-	35.5	41.9	54.8	3.2	12.9	19.4
	12	-	-	8.3	-	16.7	-	41.7	25.0	41.7	8.3	16.7	16.7	

イ 日々の生活の中でどのような悩みや不安を感じることは、「就学・進学のこと」が82.9%で最も多く、次いで「学習・成績のこと」が45.3%となっています。



ウ 就学している方について就学する上で必要だと思うことは、「授業を受ける際に、障がいに応じたサポートが受けられること」が85.9%で最も多く、次いで「学校生活全般で、病状に応じたサポートが受けられること」が26.6%となっています。



エ 仕事をする（続ける）ために必要と思うことは、「仕事に役立つ技術や知識を学ぶこと」が62.4%、「障がいにあわせて、さまざまな仕事や働き方ができること」が50.3%、「上司や同僚が障がいを理解して協力してくれること」が50.8%となっています。

(MA) 問41 仕事をする（続ける）ために、必要だと思うことは何ですか。



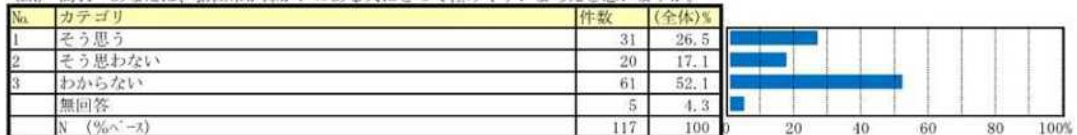
オ 障がいがあることで差別を感じたり嫌な思いをしたりすることが「よくある」が4.3%、「時々ある」が29.9%となっています。

(SA) 問42 あなたは障がいがあることで、差別を感じたり嫌な思いをしたりしたことがありますか。



カ 狛江市が障がいのある人にとって住みやすいまちだと思うか「わからない」が52.1%で最も多く、次いで「そう思う」が26.5%となっています。「そう思う」は発達障がい」で41.9%と最も多く、「そう思わない」は「身体障害者手帳」で35.7%と最も多くなっています。

(SA) 問44 あなたは、狛江市が障がいのある人にとって住みやすいまちだと思いますか。



IV 現行計画に見る現状・課題について（現在調整中）

1 地域福祉計画

重点施策	現状	課題
1 多様な地域生活課題に応える包括的支援のしくみづくり		
(1) 新しい包括的な相談支援・サービス提供システムの構築		
①	複雑化・複合化した課題に対応できる包括的で切れ目のない相談支援体制の整備を進めます。	狛江市第1次重層的支援体制整備事業実施計画のつなぐシート及び体制整備の進捗が遅れています。
令和5年度内に第1次計画で掲げた3つの重層化を図るための仕組みづくり、体制整備を行うという目標の達成を目指します。		
(2) 新しい支援体制を支える環境整備		
②	福祉の担い手となる人材を確保し、育成・養成するための研修等を強化します。	毎年度実施方法、カリキュラム等を改善して、福祉カレッジを実施しています。
多様な福祉の担い手となる人材を確保できるような、カリキュラムの改善が必要です。		
③	コーディネート人材を確保し、コーディネート機能の強化を図ります。	令和4年度に福祉のまちづくり協議委員会を設置し、全ての日常生活圏域に福祉のまちづくり委員会を設置したことにより、地域生活課題を地域住民で解決するための仕組みが整いました。
この仕組みを活用し、地域のアセスメントを行い、アセスメント結果に基づき、地域生活課題を把握し、地域住民とともに地域生活課題を解決する中で住民力を強化していく必要があります。		
3 安心・安全に暮らせるまちづくり		
(1) 防災・防犯体制の充実		
①	災害時の福祉避難所の円滑な運営体制を整備します。	ガイドラインの改定を踏まえた狛江市避難行動要支援者支援及び福祉避難所設置・運営に関するプランの改定が遅れています。
令和5年度中のプランを改定を目指します。		

2 高齢者保健福祉計画

重点施策	現状	課題
2 社会参加と地域貢献による生きがいづくり		
(2) ころ潤う、人とつながる高齢者の出会いの場を提供します。		
①	一緒に楽しめるパートナーを探している人、異性がいる場に出席することにより張り合いができて元気になりたい人等の出会いの場を設けます。気軽に継続的に参加しやすい仕組みを作ります。	地域包括支援センターの各圏域ごとに、一人暮らしの高齢者を対象とした「大人の社会科見学」、「パン作り大会」、「こまえ転入者のつどい」等を、出会いの場として試行的に実施しました。
試行実施の好調な結果を踏まえ、本格実施へとつなげます。 市内・市外における活動等、目的別に出会いの場講座を連続して開催し、参加者自らが企画にも携わり、互いに協力し合うことで、人とつながる関係を構築します。		
6 認知症バリアフリー社会を創る		
(1) 認知症サポーターを支援するチームオレンジを創設します。		
①	「チームオレンジ」を創設し、地域で暮らす認知症の方やその家族の困りごとと認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ仕組みを構築します。	「チームオレンジ」の担い手養成を目的とした認知症サポーターステップアップ講座（1回）を開催し、活動希望者の登録を行いました。 「チームオレンジ」の先進地（清瀬市）を関係者と視察しました。
認知症サポーターステップアップ講座を基礎編と応用編に再編し、活動希望者がスムーズに「チームオレンジ」の担い手となるよう体制を整えます。 視察結果を参考に、チームオレンジの創設に向け準備を進めます。		
7 介護保険制度の円滑な運営		
(2) 介護サービスの質の向上を図ります。		
①	一緒に楽しめるパートナーを探し	地域密着型サービスのうち、小規模多機能型居
引き続き次年度もサービス提供基盤の整備に向		

	<p>ている人、異性がいる場に出席することにより張り合いができて元気になりたい人等の出会いの場を設けます。気軽に継続的に参加しやすい仕組みを作ります。</p>	<p>宅介護及び看護小規模多機能型居宅介護サービスが未整備であるため、事業者公募を2回行いましたが、公募がありませんでした。</p>	<p>け、事業者の公募を2回行う予定です。</p>
--	---	--	---------------------------

3 障がい者計画

重点施策		現状	課題
1 地域で暮らし続けられる基盤づくり			
(1) 地域における生活の拠点の構築			
①	地域生活支援拠点の整備を行います。	整備に向けて進めていたが、物価高騰等の影響により施設の規模を縮小することとしたため、1年間スケジュールの後ろ倒しとなった。	令和5年度内に第1次計画で掲げた3つの重層化を図るための仕組みづくり、体制整備を行うという目標の達成を目指します。
2 総合的で切れ目のない生活支援システムづくり			
(1) 地域における相談支援の充実			
①	切れ目のない相談支援・相談窓口の充実	地域生活支援拠点の整備が1年間整備スケジュールを後ろ倒ししたことにより、併せて基幹相談支援センターについても設置時期の見直しを行った。	障がい小委員会の答申を基にこれまでの議論を整理し、具体的な検討に取り組む。
4 安心で安全に暮らせるまちづくり			
(1) 避難行動要支援者支援体制の充実			
①		ガイドラインの改定を踏まえた狛江市避難行動要支援者支援及び福祉避難所設置・運営に関する	令和5年度中のプランを改定を目指します。

		るプランの改定が遅れています。	
--	--	-----------------	--

4 成年後見計画

重点施策		現状	課題
1	目的・対象に応じた広報の充実		
	(1) 権利擁護支援の必要性や成年後見制度に関する理解促進を目的とした広報活動等を充実させます。		
	③ 多様な媒体を活用した広報活動を行うとともに、地域で開催される多様な機会を活用して周知します。	SNSを活用した広報活動、まなび講座による周知ができていません。	必要に応じて、SNS等を活用した広報活動、市民に分かりやすいまなび講座の内容の検討を行う。
2	本人意思を尊重した切れ目のない相談支援の充実		
	(1) 権利擁護支援の必要性を検討する仕組みを整備します。		
	① 市の権利擁護支援担当課と地域の関係機関が連携して、権利擁護支援や成年後見制度利用の必要性の検討を行う場及び仕組みを整備します。	協議会において、狛江市権利擁護支援・検討会議（以下「支援・検討会議」という。）の試行実施を行った。	関係機関への周知・調整を行い、支援・検討会議の本格実施に向けた取り組みを行う。
3	利用者がメリットを実感できる成年後見制度利用促進		
	(1) 本人、親族等による申立て支援に関わる相談支援を強化します。		
	① 本人や親族等による申立ての支援に係る体制整備を検討します。	社会福祉協議会において法人全体の事業整理について検討を行った。	社協のあり方検討委員会による結果をもとに、本人や親族等による申立ての支援に係る体制整備を含めた社協全体の事業見直しを行います。
5	地域における権利擁護支援の体制整備		
	(1) 中核機関を整備し、中核機関としての機能分担を明確化します。		

	①	市の実情に応じ、中核機関が担うべき具体的機能を分散します。	社協（あんしん狛江）が担うべき役割について協議会での検討は見送った。	社協の事業整理の中で社協が担う中核機関の機能を整理する。
	(3)	権利擁護支援の地域連携ネットワークを構築し、運営します。		
	①	センター構成5市及びセンターで広域における協議会の設置及び市域における協議会との連携の在り方について検討します。	センター構成5市で5市共通計画各年度ごとの取組の振り返りシートを作成し、構成5市の取組内容を共有し、意見交換会を行っている。	